



中学生の くれしん「ありがとう」の手紙

令和 7 年 度

ありがとう!



笑顔と笑顔のおつきあい

呉信用金庫



『ありがとうの手紙』文集について

呉信用金庫 営業統括本部

くれしん『ありがとうの手紙』は、平成十九年の六月十五日「信用金庫の日」の全国イベントとして開始し、その後中学生を対象とした当金庫独自のイベントとして続けてきました。多感な中学生に「ありがとう」という感謝の窓から自分の内と外を眺めてもらう機会になればというのが、主催者の願いです。

「くれしん『ありがとうの手紙』は年を重ねることに充実したものとなり、応募総数も増加してまいりました。今年は域内二十七の中学校から、一千一百五十九作品の応募をいただきました。ご協力いただいた各中学校の生徒の皆さんと先生方に、こころよりお礼申しあげます。

選考につきましては、呉市教育委員会学校教育課の岩城様および広島文化学園大学の山内学部長、呉工業高等専門学校の花澤講師・石本非常勤講師による厳正な選考を行い、優秀賞十作品、努力賞四十作品を選出しました。ご応募いただいた作品は文集として編集しました。本文集が皆様方の青春の一ページを彩ることを祈念します。

(令和七年十二月十九日)

目次

土山	吉田	光岡	松本	矢田	松永	榎尾	濱田	和泉	藤井	隈元	小田原	右近	本山	高橋	村山	猿渡	【努力賞】	三好	宮本	山本	大上	吉村	白石	中西	鬼塚	奥	坂本	【優秀賞】
來実	蘭	沙那	姫奈	葉菜	愛菜	太苺	光里	璃桜	陸羽	晴奈	大輝	椿	心愛	悠綺	季郷	愛海	結愛	ひより	紗希	奈桜	一美	花奈	絢香	果歩	心暖	蓮介		
(吳市立仁方中学校)	(吳市立天志学園(中学校))	(吳市立天志学園(中学校))	(吳市立白岳中学校)	(吳市立昭和北中学校)	(吳市立昭和北中学校)	(吳市立昭和北中学校)	(吳市立昭和北中学校)	(吳市立吳中央中学校)	(吳市立音戸中学校)	(熊野町立熊野東中学校)	(熊野町立熊野東中学校)	(熊野町立熊野東中学校)	(熊野町立熊野東中学校)	(熊野町立熊野東中学校)	(熊野町立熊野東中学校)	(大崎上島町立大崎上島中学校)	(大崎上島町立大崎上島中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立中央中学校)	(廣島市立中央中学校)	(廣島市立天志学園(中学校))	(廣島市立天志学園(中学校))	(吳市立昭和中央中学校)	(吳市立昭和中央中学校)	
45	43	41	39	38	37	36	35	33	32	30	28	26	24	23	21	20	18	16	14	13	11	9	7	5	3	1		

吳市教育委員会	廣島文化学園大学	廣島工業高等専門学校	吳工業高等専門学校	【選考委員】	河野	山崎	村山	直木	徳広	武田	柴田	上中	横山	松田	林	白男	児玉	木村	山路	東谷	河野	熊谷	久保	松重	平尾	新本	
学校教育課	学部長	講師	非常勤講師		孝	優里	航基	悠真	真緒	洗希	莉奈	心都	梓実	彩希	美希	隼人	紗和	仁菜	記有南	涼風	大志	翔太	叶夢	怜那	華菜	さくら	
					(三原市立幸崎中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)	(廣島市立矢野中学校)
					77	76	75	74	72	71	69	68	67	65	64	62	60	58	56	55	54	53	52	50	49	47	

(本文集の掲載に、ご了解いただいた49作品を掲載しております)

「僕のバスケットボール人生」

呉市立呉中央中学校 坂本 蓮介

「ビビー」

二〇二五年七月二十二日、県大会二回戦の試合終了ブザーがコートに響き渡った。コート上で僕は涙を我慢することができなかった。

僕がバスケットを始めたのは、小学校一年生からだ。きっかけは、父が昔バスケットをしていてミニバスにはいることを勧められたからである。

でも僕は元々バスケットが好きでなく、チームに仲の良い友達がいる訳でもないのに、始めてすぐは練習に乗り気になれなかった。

練習が嫌で行きたくないと言っていたこともあった。でもそんな僕に声をかけてくれた子がいた。それは、六年生のキャプテンで、うまくいかない練習も一緒にしてくれた。それが僕の唯一の心の支えになって気持ちも前向きになりバスケットが楽しくなっていた。

しばらくして五年生になり。チームに六年生がいないこともあってキャプテンに任命された。嬉しさ以上に、みんな

なを支えなければならぬというプレッシャーに押しつぶされそうだった。久しぶりにバスケットを辞めたいと思うことが何度もあった。

でもそんなときに心の支えになったキャプテンの姿を思い出すと、不思議とバスケットを続けようと思うことができた。そうは言っても他のチームは六年生が主体なので、負け続きで結果が出るのが少なく、チームの責任を自分の責任に感じて辛かった。

そんなときに僕に声をかけてくれたのはチームメイトだった。それはかつて心の支えとなっていたキャプテンと重なった。みんなを支えようと必死に頑張っていたら、いつの間にかみんなから支えられていた。僕の記憶のなかにあった遠い日のキャプテンの姿に支えられていただけだったけど、気が付けば僕には多くの仲間ができていたのだと気が付き自信がいった。

中学生になってもミニバスからの仲間達とバスケットができる事がまさに青春であった。

最後の県大会前は、引退に悔いを残さないために部活動以外にもみんなで練習を繰り返した。そして先日、僕の九年間のバスケットボール人生が終わった。何とも言えない

喪失感と涙が溢れかえって、本気でバスケットに向き合ってきたのだと実感した。

九年間を振り返ると嫌なことも逃げ出したことも数え切れないくらいあった。でも、今でも僕はバスケットを楽しく続けることができている。それは、心の支えであったキャプテンや、チームメイト、コーチ、バスケットを通して出会ったすべての人々、そして両親のおかげである。それがやつと分かった。だから僕は一度で伝えきれないほどの、「ありがとう」を伝えたい。

そして、僕のバスケットボール人生はまだ終わっていない。次のステージでも楽しみながら続いていく。感謝の気持ちと共に。

「私が強くなれた理由」

呉市立昭和中学校 奥 心暖

私が感謝したい人はおばあちゃんです。

私のおばあちゃんは常に優しく暖かい人でした。

私が昔、住んでいた家からおばあちゃんの家はとても近く、私が幼い頃は両親も共働きで面倒を見てくれる人がいなかったもので、おばあちゃんの家で過ごすことが多かったです。

幼い頃から人見知りで人付き合いが苦手だった私は仕事や育児で忙しい両親に甘えたり、「これが欲しい！」などの自分の感情を表に出すことが難しかったです。

だけど、私はおばあちゃんだけには甘えられるし、「これ欲しい！」なんて言葉を自然と出すことができました。

私は不思議で仕方なかったのです。

「どうして？ どうしておばあちゃんにはママやパパに言えないようなことが言えるの？」

幼い頃の私は我慢という言葉がよく分からなかったのですが、ただの心の中にある「モヤモヤ」でしかなかったのです。その「モヤモヤ」が消えるのはなぜか、それに気づいた

のは小学一年生になってしばらく経ったある日のことでした。

同じクラスの男の子が先生に怒られていたとき、先生はこう言いました。

「少しは我慢しないとダメでしょ!!」

私はその時(あゝ我慢だ。あのモヤモヤ。)そう思いました。おばあちゃんに私は我慢せずにいられるんだと気づきました。

それから数年が経ち、おばあちゃんの体調は悪くなっていきました。「がん」になってしまったのです。信じられませんでした。

「どうして？ 神様なんで優しい人を悪い目にあわせるの？」 そんなことばかり考えていました。

私が小学三年生になるとおばあちゃんは他界してしまいました。私は大好きなおばあちゃんの最後を見たくなかったので病室から出て二歳下のいとこと一緒に病院の屋上で遊んでいました。

今思えばあの時のおばあちゃんから目を逸らさなければよかったと心から後悔しています。

いつも私が笑うと優しく声と笑顔で言ってくれた

「このんちゃんの写真は素敵ね」

もう一度聞きたかったけどもう聞けない。

だけど、私はその事からよく笑うようになったし、お母さんにもお父さんにも自分の感情も伝えられるようになりました。

以前変わらず人見知りだけど、人と話すのは好きになりました。

夢でもいい、幻でもいいからもしもう一度おばあちゃんに会えるなら私は、おばあちゃんのおかげで人が好きになれたし、家族が大好きになれたこと、そして自分の笑顔がチャームポイントになれたことを伝えたいです。

そして最後に、おばあちゃんが素敵だと言ってくれた、笑顔で「ありがとう」と。

「つながれていく大きな恩」

呉市立天応学園（中学校） 鬼塚 果歩

私が「ありがとう」を伝えたいのは七年前の西日本豪雨災害の時私たちを、天応を支えてくださったボランティアや自衛隊の方々、募金をしてくださった方々です。

「避難してください。」

お母さんの携帯には、少し不気味なアラームと同時に、この文字が映っていました。当時、小学二年生だった私は初めての光景に言葉が出ませんでした。翌日、あたたかくて自然いっぱいの天応は姿を変え、真っ暗な闇に包みこまれていました。ニュースで流れてくる変わり果てた天応、川に流れこんでいる車や大きな木の枝など、目や耳をふさぎたくなるようなことばかりでした。

そんな時、私たち天応を救ってくださったのはボランティアや自衛隊、募金をしてくださった方々の存在でした。ボランティアの方々には全国から集まってくださり、荒れてしまった家の中の土を出してくださったり、自衛隊の方々と共に道路に流れた土砂や枝を取り除き、整備してくださったりしました。ボランティアや自衛隊の方々のおか

げで天応は少しずつ明るさを取り戻し、笑顔が増えてきているように感じ、とてもうれしかったのを今でも鮮明に覚えていています。

また、先日の防災集会では当時の天応中学校で校長先生を務められていた方が、私たちを支えてくださった方々についてお話をしてくださいました。その時私は初めて、募金をしてくださった方々について詳しく知りました。

募金をしてくださった方々はとても多く、改めて、今ある私たちの暮らしや、天応が多くの方々に支えられていることを忘れず、西日本豪雨災害のことを風化させてはいけないと強く思いました。

このような経験を通して、私は今ある暮らしが当たり前ではないことを理解し、多くの人への感謝を忘れてはいけないと強く感じました。

そして一番大切なのは、「恩をつないでいく」ということだと考えます。お互いに助け合っていく、支え合っていくことで大きな絆が生まれ、「恩返し」につながっていくと思います。「恩をつないでいく」ということは、風化させない限り永遠に続いていくものだと思います。

だから私は、この経験を風化させないよう、小さな子供

たちにも伝えていきたいです。

最後に。ボランティアや自衛隊の方々、募金をしてくださった方々へ。本当にありがとうございます。

「夢と希望」

呉市立天応学園（中学校） 中西 絢香

鈴江奈々様、お元気ですか。報道番組で、活躍されている姿を拝見し、私もますます鈴江さんのようになりたいとパワーをもらっています。

鈴江さんと初めて会った日のことは、七年経った今でもはっきりと覚えています。

西日本豪雨では、色々な所で大変な被害があり、私の住む天応地区でも十二名の尊い命が失われ、六百軒近い住宅が被害にあいました。私の住んでいた家も全壊し、市民センターに避難していました。天応の現状を報道する為に、取材に来ていた鈴江さんに出会ったのはその時です。私と妹たちに優しく声を掛け、温かく接してくれて、私たち家族に寄り添ってくれました。困っていることがあったら、問い合わせてください、避難所で何もできず、行き場のなかった小学生の私のことを報道してくれて、番組を見た近くの方々から預り等のボランティアの申し出もあり、母は大変感激していました。

そして、私は、鈴江さんのような人に寄り添うことがで

きるアナウンサーになりたいという夢ができました。色々なものを失った災害だったけれど、全国各地たくさんの方々の優しさを知り、自分の人生を変えた出会いがあったことは、幸せなことだと思っています。

鈴江さんに出会った小学一年生の頃から、夢はずっとアナウンサーになることです。そして私は、実際に災害にあったからこそできることを探して、今年呉市の防災リーダー養成講座と防災士養成講座を受講し、認定していただくことができました。いつも一人で参加していますが、色々な方と知り合えたり、話を聞けるので、とても充実しています。

そして、アナウンサーと災害について調べるうちに天気のことでもっと知りたいと思うようになりました。そんな中で、自分が興味のある、健康気象アドバイザーという資格を知り、今勉強しています。気象予報士の勉強も去年から初めて、資格試験に挑戦していきたいと思います。私色々な知識を持ち経験したことで、伝えられることがあると思います。

今は災害も至る所で起き、いつ、誰が被害にあってもおかしくありません。大難を小難にできるよう、小難を無難

にできるように、自分にできることをしていきたいです。

鈴江さん、災害の後も二回も会いに来てくれてありがとうございます。うございました。私の今、取りたい資格が全部取れたら、胸を張って鈴江さんに報告したいと思っています。

私に夢と希望を与えてくれてありがとうございます。

人に寄り添い支えることができるアナウンサーになって、いつか一緒に仕事ができるように、努力を忘れず、頑張ります。

「おばあちゃん、ありがとう」

呉市立広中央中学校 白石 花奈

大好きなおばあちゃんへ。

両親が共働きでおばあちゃんの家が近かったので、幼稚園や小学校の送り迎えに来てくれたり、小さい頃からしょっちゅう泊まりに行っていた私のことをいつも可愛がってくれたおばあちゃん。

五歳の頃から毎週ピアノのお稽古について来てくれて、一時間ずっと座って、私の演奏を聴いてくれました。ピアノの先生に口答えした時は、いつもは怒ることがないおばあちゃんに本気で怒られたよね。礼儀とか目上の人への態度とか大切なことを厳しく教えてくれました。おばあちゃんにはピアノの上手下手はわからないけど、一生懸命やることが大事だよと言って、私が頑張った時はいっぱい褒めてくれました。

川辺での散歩や公園で遊んだり、畑で遊んだりした時、暑い時も寒い時も私が帰りたいと言うまでずっと待ってくれました。私たち三兄弟は自分のことが一番好きだとお互い思っていて言い合いをすることもありました。そんな私

たちをおばあちゃんはいつも優しく気にかけてくれました。

そんなおばあちゃんは、三、四年前から物忘れがひどくなり、二年前ついに認知症と診断されました。何度も同じ事を言ったり、どこに物を置いたのかも忘れてしまったり、私や兄の年齢がすぐにわからなくなってしまい、時には私と母の名前を呼び間違えたりするようになってしまいました。

そういうことがあると、私はしょうがないという気持ちと共に寂しくなってしまう。私の話を聞いて笑ってくれることもなくなり、私と一緒に川辺で歩いたことも、私の名前さえもいつかおばあちゃんは忘れてしまう日が来ると思うととても不安になってしまいます。

母はあまり間違っているだとか否定するようなことは言わないようにと言います。でも私はおばあちゃんに言いたくなります。「私は花奈だよ、私のこと忘れないでよ、おばあちゃん。」と。

私はおばあちゃんにもっと長生きしてほしいと思っています。それと同時に私のこと忘れないでほしいとも思います。おばあちゃんが長生きをすればするほど、私は忘れら

れてしまうかもしれないのに、私はおばあちゃんに長生き
してずっとそばで笑っていてほしいと思います。おば
あちゃんにありがとうと言ってもなんでありがとうと言わ
れたのか忘れてしまうので、私はこの手紙で精いっぱい「あ
りがとう」を伝えたいと思います。

ありがとう、おばあちゃん。私のことをみまもってくれ
てありがとう。色んなことを教えてくれてありがとう。話
を聞いてくれてありがとう。いつも笑ってくれて本当にあ
りがとう。

「Salamat po, ママ」

呉市立広中央中学校 吉村 一美

「Masaya ka?」ママが私によく話す口ぐせです。日本語に訳すと「あなたは幸せ?」という意味です。

私のママは、明るくて、楽しくて、みんなに親切な人です。そして何より私のことを愛しています。それでいつも「Masaya ka?」と聞いてきます。私はこれに対していつも「Masaya」と答えます。

そんな私たち親子は今年の夏休みにママの家族に会いにフィリピンに行きました。一年ぶりに家族に会えてうれしかったです。ママも一年ぶりに家族に会えてすごくうれしかったです。でも数日後、私のお腹が痛くなり病院に行きました。フィリピンの病院は、日本の病院とはちがうのでとっても不安でした。ママは、私の様子を見て、とっても怖かったそうです。

数日後、今度は熱が出て、フィリピンの家族も、ママも体調が悪くなりました。本当はフィリピンで楽しく遊びたかったのに、初めて、日本に帰りたいと思いました。

フィリピンから日本に帰国する日が来たけど、ママの体

調がますます悪くなっていきました。いつもは元気なママなのに、どんどん体調が悪くなっていく様子を見てとてもかわいそうに思いました。

飛行機の中でも苦しそうなママと一緒になんとか帰国し、家に帰れましたが、結局救急車で運ばれました。初めて乗った救急車の中は、狭くて、色んな機械があつて、救急隊員の人は受け入れてくれる病院を探すために電話をかけていました。その様子を見て怖い気持ちになりました。受け入れ先の病院が決まり、そのまま入院しました。入院と聞いたときどうしようと思いました。これまで野外活動や修学旅行でママとはなればなれになったことはあるけど、ママが病気になるてはなればなれになったのは初めてだったので生活できるかなと思いました。

面会謝絶で、ママとすぐに会えないため、自分で家の洗濯や掃除をしました。やってみるととても大変な仕事でママに対して「Salamat po」日本語だと「ありがとう」の気持ちがおきました。

ようやく、久しぶりにママと面会できる日が来ました。病室の扉を開けてママの顔を見た時、うれしい気持ちと安心した気持ちが込み上げてきました。ママは私の顔をみて

涙ぐんでいました。

しばらく病室で話した後、私にこう聞きました。「Mas
aya ka?」私はいつものように「うん。Masaya
」と答えました。

でもママが元気であるときが一番幸せです。

ママいつも幸せを願ってくれてありがとう。Salam

at po

「私の弟」

広島県立広島中学校 大上 奈桜

「一人っ子だったら、良かったのに。」私は、うるさい弟に、毎日不満を感じていた。

私には、五歳年下の小学三年生の弟がいる。弟は、家の中で一番うるさい。毎日、お父さんに怒られて泣く。私と喧嘩する。喧嘩して、また、お父さんに怒られて泣く。その繰り返しだ。ときには、八つ当たりをしてくることや、ちよっかいをかけてくることもあり、正直イライラすることがある。毎日毎日、家の中が動物園のように騒がしい。

しかし、そんな弟の存在の大きさを実感することがあった。弟が空手の大会で東京に行き、三日間ほど、家にいないことがあった。最初は夢のようで、信じられないほど嬉しく、喜んでいたが、だんだんと静まり返った家の中に、居心地の悪さを感じた。弟が家にいなくて、寂しかった。

学校に行く時もいつもと違って静かな朝だった。日が経つにつれて、弟に会いたいという気持ちだが、信じられないほど大きくなっていった。

玄関に耳を澄まして、帰ってきた弟の声が聞こえた時は、

ものすごく嬉しかった。家がやっと、自分の居場所になった気がした。たった三日間だった。弟が帰ってきてからは、また毎日のようにうるさくなった。でも、前のようにイライラすることもあるが、嬉しかった。

今までは弟の悪いところしか考えていなかった。しかし、考えてみれば、弟には悪いところもあるし、良いところもある。毎日、玄関までお見送りに来てくれたり、私の話をずっと聞いてくれる、とっても可愛い、最高の思い出だ。

この時、初めて「一人っ子じゃなくて良かった。」と感じた。

よく喧嘩もするし、八つ当たりもしてくるけど、弟には良いところがたくさんある。弟がいるから家が明るくなる。私も明るくなる。私が毎日楽しく笑顔で過ごせるのは、弟がいるからなんだと感じた。

普段は、感謝の気持ちを伝えることができないけど、
「いつも笑顔にしてくれてありがとう。」

「出会いに別れがあるとしても」

広島県立広島中学校 山木戸 紗希

私は、父の転勤で、何度も引越しを重ねてきました。小さい頃は友達と別れることは、そこまで悲しいわけではなく、むしろ新しい友達をたくさんつくりたい、とポジティブでした。

小学校入学と同時に広島県に住み始めました。マンションに住んでいて、隣には同級生が住んでいたため、すぐく仲良しでした。私の姉や妹も学校などに通い始めるようになり、家族で引っ越し、ということがなくなりました。

単身赴任で東京にいる父から、とある連絡がきたのは、小学三年生の冬休みでした。

「四月からの三年間、インドに住むことになった。」

「インド」がどんな国か、などよく分かっていなかったし、行くのは父一人だったため、そこまで深く考えていませんでした。半年後までは。

いつのまにか話が進み、気がつけば「インド」。まさか家族全員で外国に住むとは。

小学五年生の四月から新しい学校、ニューデリー日本人

学校に通うようになりました。「日本人学校」だったから、割と安心していました。しかし、いろいろと分からないことだらけで、不安も大きかったです。

始業式、私以外にもたくさんの方が転校していました。人数も少なく、一学年一クラスで約二十から三十人程度でした。クラスに行つて、自分の席に座っていると、すぐに、話しかけてくれた子がいました。その子は小学二年生から、インドへ住み始めたそうです。仲良くなって、たくさんおしゃべりして、いっぱい遊んで、ふざけ合つて、笑つて。私にとってその子は親友でした。

その子との思い出はたくさんあります。家は遠かったけど、お泊まりしたりもしました。インドに来る前は、日本にいたい、と思つていたのに、ずっとインドにいたい、と思うようになりました。

私は中学受験をするために、小学六年生の前期終業式を終えて帰国する予定でした。その子も、それを知っていたし、悲しんでいました。小学六年生後期には、修学旅行があるから、他に仲良い人をつくったほうがいいんじゃない、と私がひそかに思っていたことを伝えると、友達はおどろいたように目を見開いていました。

「いつまで一緒に居られるか分かってるなら、その日まで、できるだけ長く、一緒に過ごしたい。」

友達は、そう言ってくれました。

すごく嬉しかったです。

限られた時間でも、別れがあると分かっているけど、その瞬間まで隣にいてくれる人がいることがとても幸せだと感じました。

友達へ。

今まで仲良くしてくれてありがとう。

また、一緒に遊ぼうね。

これからも、ずっとよろしくね。

「私の大好きな先生へ」

広島市立矢野中学校 宮本 ひより

先生は、私の憧れであり夢でもあります。

私は中学校に入学してから、いつも真剣な表情をしている先生に最初は厳しそうな印象を持っていました。ですが、先生の人を惹きつける滑らかな英語の発音や、身体全体を使ってクラス全員に気持ちを伝えようとしている先生の姿を授業で見て、先生の存在が自分のなかで憧れへと変わっていきました。

私は今まで、自分にとっての夢を聞かれたときになかなか答えが出ませんでした。少し興味があつたり、憧れていた職業はありましたが、それは自分が本当に目指したいと思うものではありませんでした。私は今まで以上に引き込まれてしまう先生の楽しい授業や、皆が夢中になって先生の授業を受けているのを見て、私は今までとはまるで異世界にいるような感覚になりました。そして、私はそこからだんだんと先生のような英語の教師になりたいという夢ができました。

そこで私は気が付きました。夢とは、日常生活を送って

いくなかで不意に口から出た言葉のなかにあり、その言葉が自分の本当に目指したいと思うものだということ。そして私は、この言葉をきっかけに、先生の存在が憧れから自分の大切な夢へと変わりました。

そこから、今まででは夢を自分からまだまだ遠い存在だと思っていたため起こすことのできなかった、自分の夢に対する気持ちや行動が、先生との出会いをきっかけに、私は将来先生みたいな英語の教師になりたいという強い憧れの気持ちを持ち、その目標を達成するために、自分で勉強方法を工夫したり、色々調べたりと、夢に少しでも近づぐための行動を起こすことができるようになりました。

先生、私に英語の教師という大切な夢を与えてくださりありがとうございます。私は、先生の授業をきっかけに自分の夢、目標を見つけることができ、今まで以上に英語の授業が好きになりました。

でも、私はもっと多くのことを先生から学びたかったし、たくさんお話したかったです。

先生の授業がしばらく受けられなくなって、とても寂しい気持ちでいっぱいですが、私は「これからも英語を嫌いにならずに頑張ってるね」という先生との約束を果たすため、

次また先生に会えたときに自分の成長した姿、英語の教師になるために頑張っている姿を見てもらうために、努力し続けようと思っています。

「今だから伝えたいありがとう」

広島市立矢野中学校 三好 結愛

令和六年一月十七日

私のひいおばあちゃんは八十九歳で亡くなりました。

私は、一歳頃から十三歳の十二年間お世話になりました。

保育園の頃から母の仕事が忙しくなり、面倒が見切れないということ母の実家へ引越ししました。

実家に住むことになったのでひいおばあちゃんとの会話が多くなりとても楽しく感じていました。会話の中では、毎日ご飯は何にするかや何して遊ぶかなど、紙にはみだすぐらいの色々な話をしていました。会話の中で一番印象に残っているのはハンバーグの話です。

私は、ひいおばあちゃんを作るハンバーグが大好きだったのでどう作るのかや、上手く作るコツを教えてもらったり、一緒に作ったりして毎日がとても楽しかったです。

小学生になり、小学校まで約四十分ほどかかり毎日「疲れたー」と言っていたことを覚えていきます。登校のときは集団登校だったのですが、下校は自由下校で、よく一人で帰っていました。だんだん一人で帰ることが辛くなり泣い

てしまいました。そのことを家族に報告すると、ひいおばあちゃんが「わしが途中から迎えに行くよ。」と言ってくれました。当時八十二歳のひいおばあちゃんが、片道四十分ほどかけてシルバーカーを引きながら迎えに来てくれました。帰るときは学校の出来事や夜ご飯の話をしながら帰りました。

いつのまにか寂しくなくなっていたのを今でも覚えています。

今思うと八十二歳のひいおばあちゃんにとってあの距離を歩くことはとても体に負担がかかることだと思えますが、それでも毎日、笑顔で「おかえり」と言ってくれたことに感謝しかありません。

小一の一月、父の転勤により、ひいおばあちゃんと離れたなれで暮らすことになりました。話すことが大好きだった私にとって、いつも話し相手になってくれていたひいおばあちゃんに会えなくなることが悲しかったです。

数年後、ひいおばあちゃんが突然心不全をわずらい体力のおとろえが見え、私達と暮らすことになりました。もう一度、ひいおばあちゃんと暮らすことへの嬉しさと離れて暮らしていた体調の心配が安心感へと変わりました。

小六の終わり頃、さらに体力のおとろえにともない要介護が必要になったため、老人ホームに入居することになりました。

そして二年後その老人ホームで私が大好きだったひいおばあちゃんは、息を引き取りました。

その事を知った時、悲しみと後悔で頭がいっぱいでした。私は、十二年間もお世話や話し相手になってもらい、たくさんのお事でひいおばあちゃんから安心感と寂しさを無くす優しさをもらっていたのに、お返しをできなかったことに後悔しています。でも、今の自分があるのはひいおばあちゃんとの忘れられない生活や会話があったからです。

ひいおばあちゃん、たくさんのお幸せを私にくれてありがとうございます。

「本当の目的と最善の手段」

大崎上島町立大崎上島中学校 猿渡 愛海

私は、もう直接会えないかもしれない人に「ありがとう」を伝えたいです。それは、小学校の時、4・5年生を担当してくれた前田先生です。

私のクラスは多分ちよつとした問題児の集まったクラスだったと思います。そんなクラスでも前田先生は受け入れ、私達に足りない部分を指摘してくれました。

その中で一番印象に残っているのは「目的と手段」という言葉です。「目的と手段」といわれても、前田先生にクラスをもってもらった人しか通じないと思います。「目的と手段」というのは簡単にいうと、「本当の目的を見失ってしまつてはいけない」というメッセージです。

例えば、私達に漢字ドリルを五ページやってこいと宿題を出されたとします。宿題というものの本当の目的は、習ったことをもう一回解き、より深く分かるようにするといふものだと思います。ですが、この時の私達は「宿題を終わらせる」のが目的になってしまっていました。それに気付いた前田先生が帰りの会でこんな話をしました。

『本当の目的を忘れとつたら、やっとなる意味が無い』と言っていました。私はこの言葉を聞いてハッとしました。

先生の言葉が自分に向かって言われているのではないかと思つたからです。私は、先生のこの言葉を聞くまで「宿題なんてパーっと終わらせちゃえば良いじゃん!」と思つていました。でも考えを改めました。

誰かが出す問いには、その誰かかなりの目的考えがあつて、どんな先生が出す宿題にも、もつとより深く学んで欲しいとか、色々な思いがあつて誰かかなりの想いや考えがあるのではないかと考えられるようになりました。それともう一つ、手段というのは、本当の目的に近づくための最善の道のことです。それを自分でしっかり考え、道を自分で切り開く力を私達に与えてくれました。

前田先生、私はあのクラスで先生に担任をもってもらえてとても嬉しいかったです。私達のクラスが前田先生にもつてもらつてなかつたら、きっと目的を忘れ、手段も考えないままだったでしょう。先生が私達に「本当の目的」を教えてくれたおかげで、私は頭が少しだけ良くなりました。もし会える時があれば、私の心からの「ありがとう」を伝えさせてください。

「大好きなおばあちゃんへ」

大崎上島町立大崎上島中学校 村山 季郷

私が感謝を伝えたいのは、祖母です。私は子供の頃から祖母が大好きで、よく遊んでもらっていました。

私は今まで祖母から、たくさんのお話を学んできました。

祖母はあらゆることができ、とても優しく、いろんな人から愛される存在です。また私も、祖母から、書道や絵画などの芸術、釣りや将棋などのごらく、卓球やソフトボールなどのスポーツを教してもらいました。それだけでなく、一緒に勉強をしたり、家庭菜園をしたりもしました。私が幼い時に、こうした事を教えてくれたから、今の私があるんだと思います。

私には九歳上の姉がいます。祖母はなぜ、姉ではなく、私をこんなにも大切にしてくれているのか気になって、私は聞いてみました。

祖母はこう答えました。

「あんたが生まれる時に病院に行つて、ついでに検査してもらったことになって検査したら、がんが見つかって、早かったから助かったんだよ。じゃけえ、あんたは私の命の恩人

なんよ」

このことを私は知らなかったもので、とても嬉しかったし、もっと祖母を大切にしようと思いました。

私は祖母の昔の話を聞くのが大好きです。まったりした話も、つらい過去も話を聞くと祖母の気持ちが分かるような気がしました。

中学生になって、家に行く機会も減って、祖母は少しさみしそうでした。私は週に一回しか会いに行けませんでしたが、いつも学校であったことや大会で好成績を残したことを話すと、祖母は笑顔で「よう頑張ったね」と褒めてくれます。今年に入ったある日、両親が焦っているのので、どうしたのか聞くと、

「おばあちゃんが立てなくなった」と言われました。

前日から調子が悪く、病院に言つても、分からないと言われたそうです。また病院に行くと、少し脳梗塞が見つかり、入院することになりました。

祖母が入院してから私は、毎日心配していました。死んでしまうかもしれない、でも死なないでほしいという気持ちが行き交つて、そわそわしていました。

お見舞いに行くと、とても元気そうでしたので、

少しその気持ちも和らぎましたが、帰ってくる日も分かりませんでした。ですが最近はりハビリもがんばっているそうで、もう少しで帰れると聞きました。

子供の頃から大好きだった祖母には、いつまでも元気に過ごしてほしいと思います。

「救ってくれてありがとう」

海田町立海田中学校 高橋 悠綺

あなたは誰かに助けてもらったことはありませんか。私はあります。それは、私が小学校四年生だったときのお話です。

その日は突然おとずれました。急に教室に入るのが怖くなってしまったのです。それまで学校に行くのが楽しくて毎日元気に登校していたのに、その日から教室を前にすると足がすくみ、わけも無く涙がこぼれるようになりました。

次第に家を出ることすら怖くなり、不登校になってしまいました。家では毎朝、お母さんが学校に欠席の連絡をしてくれたりスクールカウンセラーに行って先生方と話をしてくれていました。そんなお母さんに、申し訳ないと思いつながらも学校に行けない日々は変わりませんでした。

新学期ということもあり、新しい担任の先生とクラスメイトの子たちでなじむことが出来るか不安だったけれど、その不安は少しずつ減っていく出来事がありました。

それは、担任の先生や友達がくれた手紙やメッセージの存在でした。家までわざわざ届けに来てくれたり「待つて

るよ。」の一言が私の心の励みになりました。また、日常的な話やちょっとした学校でのエピソードのお陰で心の緊張や恐怖がほぐれていったように感じます。その、みんなの心遣いで私は少しずつ学校に行ける日が増えていきました。けれど、担任の先生は他の小学校に移動になり、友達には恥ずかしくてちゃんと「ありがとう。」と感謝の言葉を伝えられずにいきました。あの時、どうしたらいいのか分からなかった私に、手を差し伸べてくれてありがとう。仲良くしてくれてありがとう。

あの時の日々の経験が私を強くしてくれました。

中学生になった今、私の周りにも学校に来ることが難しい友達が何人かいます。そんな友達に次は私が手を差し伸べる側になれるようになります。特別なことが出来なくても、話を聞くこと、笑顔でその子を受けとめてあげること、あの時の私が救われたように、寄りそってあげたいと思います。

「信頼できる先生」

熊野町立熊野中学校 本山 心愛

担任の小松先生へ はじめに私は小松先生を先生達の中で一番信頼しています。だから日頃伝えられない感謝の気持ちをこの手紙を通して伝えたいと思います。

先生と出会ったのは一年前の春、私は着慣れない制服を身に纏い初めて中学校の教室に入りました。入学式に出る前、胸元の花飾りを上手く付けられないしていると先生が優しく声をかけて、付けてくれました。自分が幼稚園児みたいに思えてきて少し恥ずかしくなったけど、先生の優しさは中学校生活の不安を和らいでくれました。おかげで中学校生活が楽しくて、毎日学校に行くのが今まで以上にウキウキでした。

しかし、二学期に入ると友達関係でとても辛い思いをしました。自分が突然独立したような気がしました。そんな時先生は、相談を聞いてくれて、私の気持ちも「うんうん」とうなずきながら全部受けとめてくれてすごく気が楽になりました。私にもちゃんと味方がいるんだと安心できました。

三学期になると新しく友達が出来て、本当の友達と出会えた感じがしました。そうして私の中学一年が終了。そして二年生に進級。ドキドキのクラス発表。担任の名前を見ると、小松先生の名前があり今年も先生がいるから安心だと思いました。

学期始めの授業は詩の勉強。国語の先生だけあって、様々な表現技法や言葉を知っていて詩の面白さを感じ、詩が好きになりました。一年生の時と同様学校生活を楽しんでいましたが、五月中旬頃、勉強や習い事の空手、気持ちの在り方など沢山の悩みで押し潰されました。

毎晩布団の中でずっと泣いて、朝起きて学校へ行くことも辛くて、空手も楽しめなくて、なにが正解なのかも分からなくなつて、体調も崩し、とても苦しかったです。一ヶ月以上も、誰にも相談できずにいました。

そして七月頃。自分に限界がきて先生に相談が出来ました。その時に小松先生はもちろん、他の先生も話を聞いてくれました。なんとなく教室に上がることも怖いと言うと学校の中でも一人で静かに過ごせる場所へ連れて行ってくれて、心が落ち着いたときは涙があふれました。

それからは久しぶりに心と体が自分でも元気だと思

える日が増えていきました。私は日頃からストレスを溜めやすく、一気に爆発してしまうことが多いので、一年生の時から先生に相談事ばかりで大変だったと思います。でも小松先生だから言えることがあるし、先生なら分かってくれる。と信じているから私は今、前向きな気持ちで毎日を過ごせています。

行事で言えば二学期に文化祭、三学期には修学旅行。二年生終了まであと七ヶ月。長いようで短いような大切な時間を小松先生と楽しく過ごしたいです。

これからもまた相談することがあるかもしれないし、迷惑かけたりするかもしれないけど、こんな私を、二年一組をよろしく願います。ずっとずっと小松先生を信頼しています。本山心愛より。

「お弁当からの卒業とありがとう」

熊野町立熊野東中学校 右近 椿

一番伝えたい言葉を、お母さんへ。

お弁当作りからの卒業です。

お母さん、今までお弁当をつくってくれて、ありがとう。

私の住む熊野町では、令和七年度二学期から食缶方式による全員給食の提供が開始される。今までは、希望選択制のランチボックス方式だった。食中毒予防のため冷たい状態で提供されていたが、温かい給食を希望する声が多くあり、この度移行されることになったそう。とてもありがたいと思う。たぐうらしいニュースである。

この決定に一番喜んだのは母だった。なぜなら、私のために約七年間、毎日お弁当を作ってくれたからだ。

転校を経験したので自校式給食の時期もあったが、幼稚園から現在まで、ずっとお弁当作りが母のルーティーンだった。

小さい頃は、苦手な食べ物が多く、食べられるものが少なかった。母はいろんな手を変え品を変え、食べられるように工夫してくれたのだが、新しい味付けも苦手だし、食

べたことのないものにチャレンジすることが何より嫌だった。そんな様子を見ながら育ててくれたから、母は嫌な顔せずに、希望選択制でお弁当を選択させてくれた。

お弁当の時間に、母の作った安心するお弁当を食べると、午後からの元気がわいてきた。好きなおかずが入っていたら、うれしくて心はずんだ。苦手なおかずは少しずつ入れてくれたので、少しずつ克服していくことができた。

全員給食になって、母のお弁当が食べられなくなるのはさびしい。でも、やっとお弁当作りから解放してあげられることをうれしいとも思う。

お弁当作りは、買い物リストを考えると時から始まっているのよ、と教えてもらったことがある。普段の食事の献立を考えることプラス、お弁当に何を入れるかも同時に考えなくてはいけないのだ。

家族の誰よりも早く起きて、炊き立てのごはんを冷まして、おかずも作って冷まして、食中毒にならないように気を付けてお弁当箱につめる。毎日、毎朝、私にはできない。

改めてお弁当を作り続けてくれた母へ感謝したい。私も年々、味覚も育ち、食べられるものが格段に増えた。食缶給食になっても、きっと大丈夫だろう。

温かい給食に移行してくださった、熊野町役場の方々にも感謝を伝えたい。

照れくさくて、言えなかった思いをこの場で伝えたい。

お母さん、今までおいしいお弁当を作ってくれて本当にありがとうございます。お疲れ様でした。

「いろんな人にありがとう」

熊野町立熊野東中学校 小田原 大輝

いつも僕が一人の時「一緒に話そう」と誘ってくれてありがとう。とてもうれしいよ。他にも、僕が「これどうすればよいか分からない」となった時、友達に相談したら、「一緒に先生に聞こうか」と話を聞いてくれて、僕の中の謎をなくしてくれました。その時もうれしかったです。僕が苦手なことも、バカにしていなののがうれしいです。僕は、人と話すのが得意ではなく、言葉もはきはき言えないときもあるのに、僕に合わせてくれてうれしいよ。

中学校の先生たちは、僕が困ったときや体調が悪いとき、きちんと言葉を伝えていられているか、怖かったし、先生に怒られないかと不安でした。でも、授業やその中の話し合いを通して、小学校のときより、言葉がはきはき言えるようになったし、先生たちのおかげで、話しやすくなり、学校が楽しくなったし、友達がいっぱいできてうれしいです。ありがとうございます。

家族は僕に料理を作ってくれたり、宿題を教えてください、空手や野球やサッカー、柔道の技を教えてください

てくれてありがとう。一番うれしかったのは、僕たち兄弟が行きたいところに連れていってくれることです。その家族との時間がめっちゃうれしいです。疲れたとき、猫が家にいるので、いやされるし、うれしいです。

小学校四年生のときや、中学校の新しいクラスになりたての最初は、みんなからの目が気になり、みんなを信じられなかったけど、先生のおかげで気が楽になってうれしかったです。ありがとうございます。先生と話中で、僕もクラスのみんなのためにできることがあると気づくことができました。ありがとうございます。

また、人との関わりで、怖くてすごく泣きそうなときも、親に相談したら、怒ってくれて、担任の先生も一緒にみんなに思いを伝えてくれてうれしかったです。僕はよく忘れものもするし、心が弱いんです。でも、力は強いので、体育祭の綱引きのとき、勝つことができ、クラスのみんなの力になれたのが、うれしかったです。

この前の八月三日のとき、友達から誕生日プレゼントをもらい、うれしかったです。いつもありがとう。僕はすぐにドジってしまい、友達に助けてもらうことも多いけど、友達が怒らずに「いいよ」と言ってくれるのでとてもうれ

しいです。ありがとうございました。

「書道部へ」

熊野町立熊野東中学校 隈元 晴奈

書道部の人はいろいろなことをしてくれました。

部長さん、あなたは私が5年生のときに同じ委員会の委員長で、計画し、まとめることができていて、あこがれの先輩でした。その委員長が書道部いくと言ったので、私も書道部に入りました。

その書道部は、ふんいきがとても明るくて笑顔が絶えず、笑い声であふれていました。先生も部員も全員優しく入って良かったと思いました。

部長、書道部を教えてくださいありがとうございます。おかげでたくさんさんの良い仲間や、優しい先輩、後輩に出会えました。文化祭もみんなががんばりましょう。

三年生の先輩、先輩は私にアドバイスをしてくれました。とても助かってます。分かりやすく、丁寧に優しく教えてくれるので、すごく分かりやすいです。先輩と話す中でおそらくの話などを話すときや一緒に活動しているときが、一番楽しいです。先輩とは文化祭を最後に一緒に活動できなくなるけど、それまでに色々なことを聞かせていてアドバ

イスを聞こうと思います。まだまだ、たくさん迷惑をかけると思うけど、ささいなことだったら笑ってゆるして下さい。

一年生の後輩、まだ出会って半年もたっていないけど、どうですか。書道部には慣れましたか。パフォーマンスはまだわからないことがあると思うけど、皆でがんばろうね。話すとおもしろくて会話はずむし、好きなものと同じだったりしてすごい楽しいよ。書道部に来てくれてありがとう。あともう一年、よろしくね。

二年生、最初は仲良くなれるか心配だったけど、話しかけてくれて話しやすかったよ。思い通りに書けなくて泣いたりもしたけど、励ましてくれて勇気が出て、もう一回やってみようという気持ちになりました。今は学校のこと、課題のこと、好きなことなどを話して盛り上がっているときと、みんなで活動しているとき、みんなで笑っているときが一番楽しいよ。いつも疲れが吹き飛ばぐらい笑わせてくれてありがとう。元気が出てくるよ。最高の仲間だよ。

先生へ、いつもお手本や指導をしてくれてありがとうございます。一年生のときは、お手本を見ずに自分の字でも成長していなかったけれど、先生の指導で自分がお手

本を見ずに書いていると知りました。そこからお手本を見るように気を付け、ゆっくり書くことをイメージして書きました。そうするとだんだん字が上手くなってきて、やっぱりお手本を見ないのと、見るのでは違うと分かりました。

私は負けずぎらいなので上手に書けないときは、目に涙をためて書いたりしているときがあります。そのときに「大丈夫だよ。」と笑顔をくれるので、がんばろうという気持ちになります。

うまくいかないときや、くやしいときこそ、と後で支えてくれてありがとうございます。おかげで、前向きな気持ちで練習することができます。

書道部のみんな、ありがとう。

絶対に文化祭成功させようね。

「小さなころから」

呉市立音戸中学校 藤井 陸羽

ぼくが伝えたいありがとうは、いつも優しく接してくれている近所の人と、地域の方々です。

ぼくが小さい幼児のときから、ずっとあいさつをしたり、声を掛けたりしてくれました。そんな優しい地域の方々に見守られ育ってきました。

ぼくはアパートに住んでいて、下の階や隣に同じく住人がいます。赤ちゃんのときは、昼夜問わず泣くので、下の階や隣の人にまで聞こえてしまうほどの大声で泣くことがあると思います。夜中に泣かれて迷惑と感ずることもあったと思います。それでも、すれ違うたびに優しく接してくれて

「今日の給食はどうだった？」

や

「最近どう？学校は楽しかったかい？」

とぼくの最近のことや学校のことともよく聞いてくれます。

近所の人たちだけでなく、地域の人も帰り道すれ違ったり

「おかえり。」

「今日は暑いね。」

とちよつとした会話をしたりして優しく接してくれました。

中学生になった今でも地域の人たちは

「おかえり。」

と優しく声を掛けてくれます。

ぼくはこんなに優しい地域や近所の人達からたくさん声を掛けてもらって、この中学生まで成長をさせていただきました。

ぼくは本当にこの波多見に生まれてきて良かったなと実感をしました。

今回のこの作文を書いて、今度は自分から地域の人に、あいさつをしたりし、お手伝いなどできることをしてみようと思えました。直接言うのは恥ずかしくて言いにくいですが、本当にこんなぼくを温かく見守ってくれてありがたいと思います。

また地域の人と話す機会があるなら

「いつもありがとうございます。」

と一言いつてみようかと思えました。

本当にありがとうございます。

「ありがたいの光灯る病室に」

呉市立中央中学校 和泉 璃桜

灼熱の暑さが私を照らす、夏真っ盛りのこの季節。お婆ちゃんと共に向かうその先にはそびえ立つ大病院。

つい最近、お爺ちゃんが病院に運ばれた。気管に水が入ってしまったらしい。元々、体は弱い方だった。お婆ちゃんも涙を流し、母は不安に陥る状況。

私は正直、無の感情。あまり関わらなくなったせいとか、昔みたいに気軽に話すことがなくなったからか。だからと行って冷酷だとは自覚している。そんな感情を抱きながら着く、薬品の匂いが漂う病室の隅。顔を合わせるほんのひと時。

「来てくれてありがとう。」
放たれる言葉、すごく元気そう。

「楽しみにしてたんだよ。」
「そうなの。」

少しの沈黙。病院の静けさがより一層、この沈黙を目立たせる。あまり会話をすることがないせいとか、中々反応がしづらい。

お婆ちゃんに按摩をしてもらう、お爺ちゃんを眺める。何を話すべきか。

「夏休み何するんだ？」

「部活でいっぱいだよ。コンクールが近いからね。」

「大変だねえ。」

とお婆ちゃん。私は此処に居ても良いのか。簡単な返答しかできない。なんだか申し訳ない。

そんな事を思っていると、弱々しさの中から聞こえる、かすかな私への問いかけ。

「将来の夢はあるのか？」

「…えっ」

突然の質問に思考が停止する。夢。今まさに私がぶつかっている先の見えない高い壁。夢なんか…その時、ふと思っただ。自然と口から出てきた。

「小説家に興味があるって感じかな。」

本当に興味があるだけだった。するとお婆ちゃんが

「じいじにそっくりだねえ」

「…えっ？」

聞いてみると、読書や絵を描くこととか詩をつくるのとか好きなこと、ほとんど同じだという。

鉛筆の持ち方や手の使い方が、じいじにそっくりだった。優しい声で温かい目でそう言うんだ。あまりに優しく言うものだから、それが何だか心地良くて。私の心が揺さぶられた。

つまり、お爺ちゃんからの家族愛を確かに受け取ったということになるのか。困るなあ。目が潤む。前、見えなくなるよ。恥ずかしいからさ、じいじとばあばの前で涙を見せないって決めてたのに。嬉しいなあ…ありがとうって伝えたい。

見守ってくれていたんだ。大切にしてくれていたんだ。側に居てくれたんだ。あたたかい存在が私を生かしてくれる。ありがとう。生まれてきて良かった。生きてて良かった。

最後にはグータッチをした。ファイトって。じいじは手を動かすことができなかったけど、手が触れた時、その手には誰よりも強く、誰よりも暖かい確かな温もりが、特別な力がそこに存在していた。そして、

「ありがとう」

って。それは私のセリフだよ。私の方こそありがとう。

十五分という時の中で得た、溶けてしまいそうなくらい

の温もりと、堅い決意が心に響く。

これが最期の夏だとしても、私は見上げて微笑み、唱えるよ。

光の灯るこれ以上のない一生分の

「ありがとう」を。

努力賞

「本当は伝えたい気持ち」

呉市立昭和北中学校 濱田 光里

あの頃の私は、朝が来るのがこわかった。教室のにぎやかな声や、みんなの笑顔が遠くに感じていました。学校に行きたい気持ちはあるのに、どうしても足が動かなくて、ただ時計の音だけを聞いていた日もありました。

でも、そんな私に声をかけてくれたのは私が毎日学校に行くことができていた時の友達です。学校に来れなかった日も「今日も学校来れてなかったけど明日は来れそう？」と心配してくれたり、学校には行けたけど教室に上がることをためらっている時、別の友達が「一緒に上がるよ！」と言ってくれたり、その一言一言が、私にとってはすごく大きな支えでした。

六年生のある日、久しぶりにみんなのいる教室に行ってみると「あ！来た！」などほかの友達は何も言わずいつも通り話してくれたり、いつものように笑わせてくれたあの瞬間、私は「ああ、戻ってきてもいいんだ」と思えました。

泣きそうになったけどあまりみんなの前で泣きたくなかった。それとみんなが笑っていたから私も自然と笑えた。楽

しく会話に参加する事ができました。

六年生のあの時間、みんなが支えて私に向き合ってくれたから、今の私がいるのだなと思います。今も色々な事で悩んだり不安になったりすることはあるけど、あの時の楽しい思い出を思い出すたびに「大丈夫」と自分に言えるようになりました。一緒に笑ったあの時間が、どれほど私の力になったか、うまく言葉では言い表せないけれど、友達のおかげで私は少しずつ前を向けるようになりました。

今の私が毎日学校に通えて、こうして笑えているのはずっと支えてくれた友達と中学で新しく出来た友達のおかげです。これからも、その友達をずっと大切に思っています。

あの時、そばにいてくれて本当にありがとう。友達がしてくれたように友達がこまった時は私がそばにいるからたくさん相談してほしいし、これからもたくさんの思い出を作りたいし、たくさん笑って楽しい事をしようね。あの時は支えてくれて本当にありがとう。

努力賞

「ありがとうを伝えたい」

呉市立昭和北中学校 榎尾 太苾

呉市中学校総合体育大会のサッカーの部で私たちのチームはこれまで一度も勝てなかった強敵に勝利し、ついに優勝することができました。試合は互角の展開だったけど、一点先制され、後半残り5分を迎えました。緊張が続く中、私は後半に同点ゴールを決め、そのあと仲間のアシストで逆転ゴールも決めました。そのまま試合が終了し、優勝の瞬間ガッツポーズをし、仲間と喜び合いました。同時に涙も止まりませんでした。それはうれしさだけでなく、ここまで一緒にがんばってきたみんなへの「ありがとう」が胸にあふれたからです。ゴールを決めたことよりも、仲間と先生と、そして応援してくれた家族の存在が本当に大きかったと思います。

私が、うまくいかずイライラしたときも先生は指導をあきらめずに、いつも向き合ってくれました。態度が悪かった時は、しっかりと怒ってくれました。悩んだ時は声をかけてくれました。そして仲間は常に私の味方でいてくれました。どんな時でも私のことをいつも尊重してくれます。

失敗した時も成功した時も必ず声をかけてくれました。チーム全体が一つになれたのはそうした仲間のあたたかさや信頼があったからだと思います。試合中もお互いに声をかけ合い、パスをつないでいく、その一つ一つが仲間との絆の強さを感じさせてくれました。ゴールを決められたのは、最後まで私を信じてボールをくれた仲間のおかげです。

優勝の瞬間、みんなを抱き合って泣いたあの時間は一生忘れません。一緒に走って悩んで乗り越えてきた先生と仲間がいたからこそ私はこの大きな喜びを手に入れました。

この試合での経験を通して、支えてくれる人のありがたさを改めて感じました。だから私は、これからも「ありがとう」の気持ちを忘れずに、どんなときもまわりの人を大切にできる人でいたいのです。それに気づかせてくれた仲間に改めて伝えたいです。「ありがとう。」これからもよろしくね。

努力賞

「ありがとうお父さん」

呉市立昭和北中学校 松永 愛葉

私のお父さんは、少し口数が少ない人なので、ふだんの会話の中で、ありがとうを伝えにくいので、この手紙に書きました。

お父さんの仕事は、船をつくる仕事をしています。朝は、私起きるより前の五時すぎに出社し、夜は、私が寝たあと十時すぎに帰ってくる人が多いです。

そして、仕事は雨の日も、台風の日も、夏の暑い日も、冬の寒い日も、外で重い部品を運んだり、火の粉を飛ばしながら、溶接をしています。土曜日に出社になる事も多く、私だったら文句の一つや二つ、すぐに口から出てしまいがちですが、何にも文句を言わず、それどころか、

「一緒に遊ばなくてごめんね。」
とあやまってくれます。

もし、早く帰って来れた日や、休みがとれた日は、仕事でつかれているのに、せんとく物や、お風呂そうじなど、自分から率先して家事をやってくれています。私は、お母さんに頼まれてしぶしぶやっているの、自分も率先して

できるように、お父さんを見習ってがんばりたいです。

このように、手紙では簡単に感謝の気持ちを伝えることはできるけど、言葉でいうことは難しいです。

しかし、言葉で言うことの方が大切なのでこれからは、少しずつ言葉にして感謝の気持ちを伝えていきたいです。

そして、私は冷暖房がついている部屋でも勉強するのがいやで、

「めんどくさいなー。」

と思っただけに出してしまうけど、お父さんは一つも口に出さず、暑いところや寒いところでも、冷暖房の効いてないところで、仕事を毎日がんばっていて、私だったらがまんできないのに、すごいなと思いました。

なので私は、これからもっと勉強をがんばって、目標の高校に行って、お父さんに喜んでもらいたいです。

努力賞

「たくさんの愛情をありがとう」

呉市立昭和北中学校 矢田 葉菜

「お母さんなんか大嫌い。」

思わず口に出してしまいました。お母さんの傷ついた顔を横目に、言わなければ良かったという後悔が私をおそってきます。

母は私の憧れの人です。誰にでも優しく、周りに気配りができ、とても明るい性格です。そのため、私はよく母に相談をしています。学校であった出来事や友達関係で悩んだこと、どんな話でも丁寧に「うんうん。」と私の気持ちを理解してくれようとします。そんな母に、私はいつも助けられています。

中学二年生の冬頃、私は友達と大喧嘩をして家に帰りました。すると、私の表情を見た母がすぐに「今日は大変なことがあったんだね。」と言いました。私は、心配させたくないから、家に入る前に、気持ちを入れかえ、顔に出してないつもりでした。しかし、あっさりと見破られてしまい、驚きました。そして、それと同時に何も言っていないのに感じ取り、温かい言葉をかけてくれる母の偉大さに涙

があふれそうになりました。

その他にも、父が単身赴任になり、仕事も忙しい中、私たちの送り迎えをしてくれます。また、朝早くに起き、洗濯をしたり、弁当をつくったりしてくれます。こんなにいつもお世話になっているのに、私は母に反抗してしまうことがあります。

SNSを使う時間が長い私に対して、母が注意をして始まる喧嘩がほとんどです。私が完全にいけないのに、母にひどい言葉を投げかけてしまいます。言ってしまった瞬間、「やばい。」と思い、母の顔を見ると、とても悲しそうな表情をしています。直さなければいけないと心で思っても、次の日には優しく話しかけてくれる母に甘えて改善できていません。

こんな親不孝者の私に対しても、いつも笑顔で接してくれる母には、感謝でしかありません。私がしんどい時には、いつも近くでなぐさめてくれる、そんな温かい太陽のような母が大好きです。

これからは、私がしてもらったたくさんの事を胸に止めて、恩返しできるようにしたいです。

「いつもありがとう」

呉市立白岳中学校 松本 姫奈

十五年間育ててくれたお母さん。今まで言えていないありがとうをこの作文で伝えたいと思う。

まず、自分が六歳の時にお母さんは離婚し、そこからは三歳になる妹と自分を一人で育ててくれたね。

小学校に入学して友人関係でなやむ事が増え、小学六年生の時に教室に行けなくなった。その時に一番に話を聞いてくれて味方になってくれたのはお母さんだったね。心強かったよ。お母さんのおかげで少しずつだけど、教室に入れるようになったよ。

中学に入学し、それでも自分は人間関係になやんでしまった。その時も親身になって話を聞いてくれたね。

中三になり、進路になやむ日々。自分はあまり学校に行けてなかったこともあって通信高校に通いたいと思っていた。

しかし、その時調べてみたところ、学費が高いことを知った。通信高校に通いたいとお母さんに言ってみるとやはり学費が高いと言われた。私はその時あきらめた。

だけど、私は時間がどれだけたってもあきらめることはできなかった。いろいろくわしく調べた結果、自分は母子家庭なので手当てが受けられることを知った。そのことをお母さんに話すと「いいよ。」と言ってくれた。でも自分になるべくお母さんに負担をかけたくないから、がんばって公立高校に行けるように勉強をしたい。高校に受かるために塾にも通わせてもらっているから、精いっぱい勉強をがんばりたいと思う。

もし、公立高校に行けなかった場合は通信高校に通わせてもらいバイトをがんばり、少しでもお母さんに親孝行をしたいと思う。でもそうならないために、今は勉強をしたいと思う。

これまで、お母さんは、自分と妹のために仕事をしてくれたり、家事をしていてくれるから、これからはできるだけ家事にも積極的にしようと思う。

自分には将来保育士になりたいという夢もある。その夢を叶えるためには大学に行かないといけないからお金もたくさんかかるし迷惑もかけてしまうけど、大人になって社会人になったらお母さんには、今までの感謝もこめて親孝行をしようと思う。

これからもたくさん迷惑をかけると思うけど、自分
で
きることを考えてがんばるから、これからもよろしくね。
十五年間育ててくれてありがとう。

「私達のために」

呉市立天応学園（中学校） 光岡 沙那

「おはようございます。」

毎朝通学路に立って、私達の安全を見守ってくれる見守り隊の方々が私達の町にはいます。通学路の危険な箇所は何人もの方々が朝から私達のために見守ってくれているのだと知り、これは当たり前のことではなく心から感謝すべきことなのだと思えて気がつきました。

私は家から学校に登校するまでの間に、車もかなり行き交う横断歩道があります。この日は見守り隊の方々がおられず、私はいつものように歩行者の信号が青になったので渡ろうと進み出しました。すると右からものすごいスピードで走っていく車が急に目に飛び込んできました。私は思わず、

「危なかった。」

と声を出しました。

それと同時に、あと何歩進んでいたらどうなっていたんだろうと考えると頭が真っ白になりました。普段通り見守り隊の方々がいたら車の信号機が黄色になった時点で、旗をも

って車を止めてくれます。私は見守り隊の方々に甘えていたという思いと、見守り隊の方々の偉大さが身にしみて分かりました。

その時、いつも見守り隊の方々に守られて登下校しているのだと強く思いました。それに見守り隊の方々は安全面だけでなく、信号が赤から青に変わるまでの時間に、

「元気？」

と毎回聞いてくれたり、

「学校頑張ってね。」

といつも気にかけてくれます。ちょっとしたことかもしれないけど、私にとってはとても嬉しいことでした。これらのことが重なりいつも楽しく、元気に学校生活が送れていると思います。

このことから、私達は本当にいつも見守り隊の方々に助けられていると思います。いつも私達がケガや事故に巻き込まれることなく、安全に登校できているのは、見守り隊の方々が私達のためにそのような環境をつくってくれているからです。だから、感謝を伝えられるときに伝えたいと思いました。それに、

「おはようございます。」

と言ってくださる見守り隊の方々から沢山の元気をもらっているので、私もそれ以上の声を出して見守り隊の方々に元気を与えられる存在になりたいと思います。

皆さんも、見守りをしてくださっているのを当たり前だと思わず、しっかり感謝の気持ちを持ちましょう。

「給食のありがたさ」

呉市立天応学園（中学校） 吉田 蘭

私がありがとうと伝えたい人は学校給食に携わる方々だ。なぜ私がありがとうと伝えたいのか、それは自分がご飯を食べるのも作るのも大好きだから。そこで私は身近な場所で料理というものを学校に行っている間も感じられる給食に興味を持ち始めた。

給食が美味しく家で再現して食べる程だ。また配られた献立表に楽しみな給食に丸をつける。学校に行く前には今日は何かな？とワクワクしながら確認するのが私の日課になった。

学校は勉強する場所Ⅱ面倒くさい、つまらないというイメージがある。だが、好きなことがあれば人間誰しも頑張れる。それが私にとって給食だった。私が考える学校給食の魅力は沢山ある。

一つ目は栄養バランスが考えられているところ。

二つ目は他国の料理の味、日本独自の味を知ることが出来るところ。主食、主菜、副菜と毎日メニューを変えて考え、給食費用のことも考えながら献立を栄養教諭の方々は

立ててくれている。

いろんなことを考慮しながら給食を食べる生徒達のことにも気を配ってくれている。小学一年生から大人までが美味しく食べられるような味付け。例えば麻婆豆腐やカレーの辛さの調節がされている。

これらのことや他にも自分が気付いていないだけでもっと配慮していることがあるんだろうなと思うとすごくありがたい話だなと思った。

三つ目は温かく美味しく安心安全に食べられるところ。普通、中学校に給食は無いが、二〇二二年から小中一貫校になり私達、中学生は給食がある。しかし、その分給食先生たちが作る量が膨大になってしまう。私は料理を家ですることがあり、大変さはよく分かる。

夏場であれば、火を使う料理は暑く料理後は汗でビッシヨリになっている。冬場は切った野菜を洗ったりするだけでも手が痛くなる。それだけでも大変なのに多人数な分、かき混ぜるのにも一苦労だと思う。でもそのおかげで出来立ての温かい給食が食べられている。

高校生になると給食が無くなってしまおうと思うと悲しい。こんな環境があるのは給食に携わってくれている方々

のおかげで成り立っている。

だからこそ、しっかり味わって食べ感謝の気持ちを込めて、卒業する前には「有難うございました。」と直接伝えたい。

「五人へ」

呉市立仁方中学校 土山 來実

今、私が一番「ありがとう」を伝えたいのは三年生ソーランリーダーの五人です。

一・二年生のみんなには、体育大会の後、感謝を伝えることができています。しかし、私はまだ体育大会が終わってから、リーダーのみんなにはきちんとお礼ができていないと思ったので、この手紙を書いていきます。

今年の体育大会は中学生としてラストの体育大会で私は気合十分でした。去年の夏頃から三年生の体育大会では団長がやりたい、と思っていました。そしてクラスのみんなが背中を押してくれて、私は白団の団長となりました。そして団長を支えるソーランリーダー五人も決まり、計画がスタートしました。

毎日残って練習計画を立て白団のソーラン節で勝てるよう考えていました。初めての組団練習、本当に不安でいっぱいだったのを覚えていきます。思った以上に全ては上手くいきませんでした。今までの先輩方と比べて、自分に劣等感を感じる日々が続きました。私は団長という立場に責

任を感じすぎていたのか、全て自分でやろうとしていました。しかし、そんな自信の無さに埋もれる私を救ってくれたのはリーダーの五人です。

厳しく言ってくれたり、私の替わりに喋ってくれたり、励ましてくれて心の支えになってくれました。今思うと五人がいなければこんなにも記憶に残る体育大会にならないと思います。

練習期間の中で私は一度（本当に疲れた。しなきやいけないことが多すぎてもう何もしたくない。）そんな事を思う日がありました。先生に言われた「まだダメだ。」という言葉の悔しさ、本当に大丈夫かという焦り、日々に疲れ、今まで溜まっていたものが漏れ出て、何もすることができませんでした。

そんなとき、リーダーのみんなは「他のことはやっておくから、自分のことをしていいよ。」とラインで伝えてくれた時は（一人じゃないんだ。仲間がいる、頼ってもいいんだ。）と思い一人で泣いたのを覚えています。みんな一生懸命になって取り組んでくれていて、夜遅くまで考えてくれて、嬉しさとありがたさでいっぱいでした。

私たち白団のソーラン節を踊るテーマの「大航海」には

旅の途中で仲間の大切さに気付く、という意味を込めていました。この時の私は、テーマそのものだと思い、この気持ちを伝えなければとやる気が出ました。

白団のソーラン節はダンダン良くなっていき、伝えるのが下手な私は、リーダーの力、三年生みんなの力の強さを痛感し、一緒に踊っていて楽しかったです。

結果は負けで、思った通りにはいきませんが、私は結果以上の何かを白団みんなで掴むことができました。

体育大会は本当に私を成長させてくれたと思います。

リーダーの五人がいてくれたおかげで、私は最後まで、白団の団長としてやり切ることができました。

五人がリーダーとして支えてくれて本当に良かったです。みんなにとって最高の団長になれたでしょうか。

「お母さんの教え」

呉市立広中央中学校 新本 さくら

私にはまだありがとうと伝えられていない人がいます。それはずっとそばで支えてくれてお母さんです。

私のお母さんは、どこか抜けているところがあるけど、芯が強く、曲がったことが嫌いで、時折口うるさい所もあり、私が幼い頃から心配り、目配り、心配りを徹底するよりに言われていました。そのおかげもあつてか、部活動ではチームのキャプテンを任せられました。

キャプテンというものはチームを引っ張っていく役割で、チームルールの挨拶、上下関係、掃除を徹底することチームの子達にも厳しく言ってきました。だけどその私の考えや行動を良く思っていない子もチームの中でいました。私も人間なので人に嫌われるとすごく悲しいです。自分にはキャプテンは向いていないと何度も思いました。

だけどその度にお母さんは

「キャプテンが嫌われない方がおかしと思うよ。誰だつて自分が楽な方に逃げるけど、そこを注意してくれるのがキャプテンでしょ。」嫌われてるのなら自分がキャプテン

の役割を果たせてる証拠じゃない？ちゃんとキャプテンできてるよ。見てくれる人は見てくれとるよ。」

私はその言葉を聞いて、どうしてお母さんはそんなポジティブなのか不思議でたまりませんでした。

また試合でプレーの調子が悪くて家で落ち込んでいた時も、

「今日だけ調子が悪かった。明日はその分調子がいいよ。」と前向きな言葉をくれました。

お母さんはかける言葉の中でもよく私に言うことがあります。

「自分の為じゃなく、周りの人の為にも努力出来るのは、誰にでも出来る事ではないし、それが出来る自分をしっかりと認めんさいね。」

お母さんはそういつてくれるけど、周りの人の為にも努力ができるようになったのは、お母さんの背中をずっと見てきたからです。遅くまで仕事をして、休む暇なく家事、送り迎えをしてくれていました。私達の前では絶対弱音は吐かないし、マイナスイメージも言いません。

試合の時にはコートにまで聞こえる声で応援してくれ、県大会出場が決まった際には、誰よりも泣いて喜んでくれ、

人の幸せを誰よりも喜んでくれる、そんな素敵な人です。

私はそんな素敵なお母さんの娘で良かったと心の底から思っています。いつもは恥ずかしくて感謝の気持ちは伝えられてないけど、私が最後まで努力して頑張れたのもお母さんの支えと応援があったからこそです。

私はいつかお母さんのような人になりたいです。だからいつでも心配り、目配り、心配りを忘れず、努力することを諦めません。

これからもたくさん迷惑かけるし、わがままもたくさん言うと思うからその時は叱ってください。叱ることにも、ちゃんと意味があることも、お母さんから教えてもらったのでちゃんと反省します。

いつもありがとう。

努力賞

「動物保護団体の人たちありがとう」

呉市立広中央中学校 平尾 華菜

私が「ありがとう」と伝えたい人は動物保護団体の人たちです。

なぜなら、動物保護団体の人たちによって、助けられる動物の命があるからです。動物は人間よりも大切にされていません。ですが動物保護団体の人たちは動物も大切な命として助けてくれます。

例えば、多頭飼育崩壊などの劣悪な環境の中にいる動物たちを動物保護団体の人たちは助けてくれます。そして病気などの検査などを行い、病気がなかったら里親を探してくれたりします。病気があっても病気の治療をしてくれます。どんな動物にも優しく接して動物たちに幸せを与えてくれます。そんな動物保護団体の人たちにありがとうと伝えたいです。

ペットショップなどで売られている動物を見てかわいいという軽い気持ちで動物を飼い、あとから飼えなくなり動物を捨てるということがあります。私はそんな人たちに言いたいです。

散歩のことは考えていますか。雨の日も風の日も暑い日も散歩をしないといけません。お金の面では病気になったら病院代や薬代が必要だし、年に一回ほど予防接種も行わなければならぬし、やはり動物も生き物なのでご飯は必要です。しつけもしないといけないし、トイレもしたら後処理をしなければならぬし、体も洗わなければなりません。自分の稼いだお金で動物を養わなければなりません。お金が足りず、面倒をみれなくなって動物を簡単に捨てないでほしいです。

そんな人がいるので動物保護団体の人たちがいます。みんなが動物を家族の一員として大切に育てれば動物保護団体の人たちはこんなことをしなくてもすむけれど、現実はそのないうまくいかないのです。動物保護団体という組織がすぐになくなることはないけど、いつかみんなが動物を大切に育て、動物保護団体がなくなれば良いと思います。それまでの間、私は、動物保護団体に寄付をしたりして動物保護団体の活動に貢献していきたいと思います。動物保護団体の方いつもありがとうございます。

「私のダンスで」

呉市立広中央中学校 松重 怜那

私の将来の夢はダンサーです。

いつもそばで支えてくれて「ありがとう。」これは、今ダンスができるこの環境と経験を積ませてくれた両親に一番伝えたいことです。

私はダンスが世界一大好きです。音楽が流れると、自然と体が動いて、心が自由になり、まるで私が空を飛んでいるかのように感じます。

そして何より、ステージに立って輝く瞬間がたまらなく好きです。あの光の中で、私のステージだと思って、自分を笑顔で表現している時、メンバーと最高のエンターテイメントショーを作り上げている時、私は自分が生きているという幸せをより実感できます。そんなかけがえのない日々を、私に体験させてくれました。

ダンス教室に通わせてくれて、練習にも付き合ってくれて、発表会では朝から列に並んで、一番前で私を見てくれました。どんなに忙しくても、どんなに疲れていても、私の夢のために時間と心をかけてくれたこと、私はすごく感

謝しています。

思い通りに踊れなくて悩む日もありました。でもお母さんはそつと見守っていてくれて、お父さんもだまって私の努力を見ていてくれました。

言葉にしなくても伝わるあたたかさに、私は何度救われたか分かりません。

そして、何気ない毎日の中にも、たくさん幸せがあります。

一緒に囲む食卓、くだらないことで笑い合う夜、学校の話をする時間。そういう何気ない日常が、私の心をあたたかく、まっすぐに育ててくれました。だから私は、今、自分の夢にまっすぐ向き合っているのだと思います。

私はこれからもダンスを通して、成長していきたいです。そして将来は、プロダンサーになり、人の心を動かすエンターテイメントをしたいです。

誰かの涙を笑顔に変えたり、疲れた心に元気を届けたり、そんな存在になりたいです。

でも、何より一番笑顔にしたいのは、ずっと応援してくれている家族です。お父さん、お母さん、そしてみんなのために、私はもっと経験を積み、もっと輝いて、私のダン

スで「ありがとう」と「大好き」を伝えたいです。あのステージの上から、心を込めて笑顔をお届けすること。それが、私の大きな夢です。

夢への道のりは、決して楽ではありません。でも、私は一歩ずつ、確実に前に進んでいきます。勉強や部活もあるけれど、ダンスより大切なことはありません。

私をここまで育ててくれて、支えてくれて、本当にありがとうございます。これからもどうか、私の一番の応援団でいて下さい。そしていつか、私のダンスで、世界一の笑顔をプレゼントさせてください。

「私達の担任の先生」

呉市立明德中学校 久保 叶夢

私達の担任の先生は学校ですごく人気だ。先生はいつも笑っていて、おもしろくて、話のネタがたくさんあって、すごく優しい先生だ。いつも先生の周りにはたくさん生徒が集まっている。私はそんな先生の笑顔が大好きだ。

一年生のとき、不思議になって先生に「なんでそんないつも笑顔なんですか」と聞いてみた。先生は「なんとなくじゃねー。でも、笑顔でおると気分上がるしみんなも笑顔になれるじゃろ？」と私に教えてくれた。先生は、みんなの笑顔が好きなんだだろうなって強く思った。みんなが笑い合っている時の先生は誰よりも楽しそうであれそう。

そんな先生は私に大切なことをいつも教えてくれる。人間関係の築き方や、生き方、考え方など。学校を楽しく過ごせるように色々なことを教えてくれた。話を聞いてと言えばすぐ聞いてくれて、自分のことのように考えてくれ、アドバイスをしてくれる。困っている人がいるとすぐに声をかけ助けている所、おちこんでいたりしていたら誰よりも早く気づいて話を聞いてくれる所、生徒の気持ちにより

そって話を進めてくれる所、他人優先でみんなを笑顔にできる力を持っている先生。

先生は、私達の見目がすごく優しい。みんながくだらないことを話して笑っているとき、先生をみると、愛しそうな目でみんなを見つめて微笑んでいた。その時の笑顔は写真に収めたいくらい私には輝いて見えた。

入学したての時不安がたくさんあって学校に行くことを少し嫌と言うと、「不安はこれから一緒に無くしていこうね」と優しく言うてくれてありがとうございます。考え方を変えると世界の見え方がちがうということを教えてくれてありがとうございます。学校はすごく楽しい場所ということ、教えてくれてありがとうございます。大嫌いだっただ学校が先生のおかげで大好きな学校に変わったよ。困っていた時、元気がない時たくさん話を聞いてくれてありがとうございます。

先生の笑顔。先生の笑顔を見ると私も笑顔になれるよ。本当にありがとうございます。心から優しくしてれているよ。笑顔な先生には私があこがれているよ。私は先生の笑顔が一番輝いて見えるし、大好きなんだよ。本当にいつもありがとうございます。

努力賞

「ありがとうの手紙」

呉市立安浦中学校 熊谷 翔太

僕には、ありがとうを伝えたい物があります。それは、野球のグローブとスパイクです。この二つの道具は命の次に大切なものなので毎日磨いています。

今から二年前、僕はずっと使っているグローブと出会いました。初めてそのグローブを見たとき心を奪われたのを今でも覚えています。中学一年生のとき、お年玉で買ったときにとてもワクワクしていました。

練習で好プレーをしたとき、試合でボールを捕球したとき、試合で勝利したとき、負けたときでも家でしっかり磨いていました。僕は磨くときに心がけていることがあります。それはありがとうという気持ちを込めて磨くことです。僕たち野球選手はグローブがないとプレーすることができません。だからいつも使っているグローブに感謝の心を持っています。辛くて野球を辞めたいとなったときでもグローブを見ると

(またもう一回頑張ろう。)

と思わせてくれます。僕はこのグローブを買って本当によ

かったです。ありがとう、グローブ。

僕にはもう一つ大切にしている物があります。それは野球のスパイクです。僕が使っているスパイクはとてもボロボロで先端には大穴が空いています。しかし僕は中学校三年間このスパイクを使い続けました。

スパイクがないと試合にも出場することができないし、けがをするリスクも高くなります。雨でグラウンド状態が悪いとき、黒土で汚れたときでも必ずブラシで手入れをしてきました。穴が空きすぎでスポーツ店に行って修理させてもらったこともありました。

僕はそのぐらいスパイクに愛情を持っています。はいたときは軽くて走りやすく、プレーで僕を盛り立ててくれたような感じがします。

市総体育大会のときでもこのスパイクとグローブのおかげで呉市三位を取ることができました。僕はこのスパイクと出会えてよかったです。

ありがとう、スパイク。僕の野球の原動力となったのは、グローブとスパイクです。

ありがとうグローブ、スパイク。これからもよろしく。

努力賞

「お父さん ありがとう」

呉市立和庄中学校 河野 大志

僕の父はいつもふざけて冗談ばかり言う、明るくて楽しい人です。けれど僕が試験勉強で困っているときには、真剣な表情になって、一緒に勉強を手伝ってくれます。わからないところを、できるようにするまで丁寧に教えてくれるので、とても心強く感じます。おかげで、苦手だった教科も少しずつできるようになりました。

漢字の点数がわるかったときには、父は手作りの漢字練習用ノートを作ってくれました。さらに、書きやすいペンまで用意してくれて、少しでも勉強しやすいように工夫してくれました。しかしそのときの僕はせっかくの練習ノートをあまり使わず、父に少しさみしい気持ちにさせてしまったかもしれません。

また、あるとき父が勉強の取り組み方について話してくれたのに、僕は真剣に聞きませんでした。その態度に父は怒り「真剣に取り組むときと、冗談を言って楽しくする」ときと、メリハリをつけて取り組みなさい。」と教えてくれました。この言葉は、今でも強く心に残っています。

それから父は、国語や数学、社会など、さまざまな科目と一緒に取り組んでくれました。問題を出し合ったり、クイズのようにして答えたりすることで、勉強がだんだん楽しいものになっていきました。父の工夫と優しさ、そして時には厳しさのおかげで、僕は「勉強はつらいだけではない」ということと、「物事に真剣に向き合う姿勢の大切さ」を学びました。

さらに父は「本や映画をたくさん見るように心がけなさい」とも言ってくれています。どんな内容でもいいのでとにかく数多くの作品にふれて、自分の好きな本や映画に出会うことが大切なんだそうです。時にはおすすめのテレビ番組を録画して見せてくれます。勉強をして身につける知識だけでなく、一人の人間としての成長を促してくれているのだと思います。

普段は笑わせてくれる父ですが、その中には深い愛情と支えがあります。これからも感謝の気持ちを忘れずに、一緒に笑って、一緒に頑張っていきたいです。

「私の先輩」

呉市立和庄中学校 東谷 涼風

私が陸上部で砲丸投げを始めたのは、中学二年生の春でした。力を使う競技に興味があり挑戦しましたが、最初はフォームが安定せず、記録も伸びませんでした。砲丸が思った方向に飛ばなかったり、力だけに頼ってしまったりして、なかなか距離が出ない日々が続きました。

そんな私に声をかけてくれたのが、三年生の先輩でした。ある日、放課後の練習で私が何度も同じ失敗を繰り返していると、先輩が近づいてきて、「一緒に練習しよう。フォーム見てあげるよ。」と言い、自らフォームを見せてくれたのが教えてくれました。「もっと体を低くして、最後は指で押し出すんだよ。」とポイントを具体的に説明してくれたのです。それからの練習では、先輩のアドバイスを意識して投げました。

最初は動きがぎこちなく、思うようにできませんでしたが、先輩は「今の良いじゃん。」「もう少し体全体で。」と、その都度励ましながら修正してくれました。そんな優しい先輩だからこそ、わからないことも気軽に質問でき、練習

が楽しく感じられました。

夏の大会では、入賞に届きませんでしたが、自己ベストを更新することができました。試技を終えた私に、先輩は笑顔で「やったじゃん。」と声をかけてくれ、その言葉がとても嬉しかったです。結果以上に、努力の成果と一緒に喜んでくれる人がいることが心強く感じました。でも、あの時先輩が声をかけてくれなかったら、私は力任せの投げ方を続けていたかもしれませぬ。技術だけでなく、支えてくれる仲間の存在や、努力を重ねることの大切さを教えてくれた先輩には、感謝の気持ちでいっぱいです。

先輩の支えがあったからこそ、辛い時もあきらめずに進むことができました。これからも、先輩のように周りの人を励まし、支えられる人間になれるよう努力していきたいと思います。この経験で学んだことを忘れず、これからも困難に負けずに努力を続けていきたいと思えます。

先輩、本当にありがとうございました。

「感謝の気持ち」

竹原市立賀茂川中学校 山路 記有南

私が感謝を伝えたい人は、おじいちゃんです。私が生まれて数か月してがんの病気で亡くなってしまったので、会ったり、お話をしたという記憶はありません。ですが「あ、おじいちゃんが守ってくれたのかな。危ないと教えてくれてるのかな。」

と、感じる瞬間が沢山あります。

母から聞くおじいちゃんは、怒ったらすごく怖くて、でも面白いことを言ったりして笑わせてくれる人だったそうです。釣りが大好きで、釣り仲間もいっぱいいました。

まだ生まれて間もない頃の私と一緒にお風呂に入ってくれたりしたとも聞き、孫である私のことも可愛がってくれてたんだとすごく嬉しくなりました。

私がおじいちゃんに助けってもらったなと思ったのは、中三になってすぐのときでした。私が学校に行くのがしんどいな、辛いなと思ってしまい、教室に入ることができなくなりしました。学校の先生方や母は、私の話をゆっくり聞いてくださって、どうやったら私がまた教室に戻れるか考え

てくださっていました。でも、私は一向に心のしんどさが消えませんでした。

「私、一生このままなんかな…」

と思っていたとき母や先生が

「貴方なら行ける、大丈夫！もっと強くなりんさい!!」

と喝を入れてくれました。私は言ってもらって、大丈夫だと自信や安心感を持つことができ、また教室に前のように戻ることができたと思います。

なぜこれがおじいちゃんのおかげかというと、母が私に喝を入れてくれたのは、自分の幼少期を思い出したからだと感じていたからです。母も学校に行くのが嫌で休もうとしていたときにおじいちゃんから

「行け!!」

と怒鳴られたんだそうです。でも、そう怒ってくれたから乗り越えることができたと言っていました。そして、おじいちゃんに

「あの子を学校から逃がさせちゃいけん！」

と言われたような気がしたとも、笑いながら教えてくれました。

私はおじいちゃんと直接話をした記憶も会ったことも覚

えていません。ですが、おじいちゃんという存在の大きさ、温かさは感じる事ができています。

もう会うことはできないけれど天国から見守ってくれていると信じて、これからしんどいことがあっても乗り越えていこうと思います。

おじいちゃん、いつもありがとう。これからも宜しくね。

「そで様へ」

広島県立広島中学校 木村 仁菜

本

読んだことのある人は多いでしょう。

ブックカバー

本を読んだり、買ったたりする際に見ることがあるでしょう。

そで

「服のヤツ？」と思う人がほとんどでしょう。違います。私の言うそでとは、ブックカバーで本の内側に折り込まれている部分を指します。よく作者情報とかあらすじとか書いてあるアレです。

私はこのそでをテーマに夏休みの科学研究を行いました。簡単に内容をまとめると、自分が持っているカバー付の本のそでの長さ等を測り、様々なそでの長さの自作ブックカバーを作り、どの長さだと快適に本を読めるブックカバーになるか、というモノです。私自身がよく本を読むので、自室で目に入った本棚等からこのような内容を考えました。この研究での結論は、

「快適に本を読めるブックカバーとは本のサイズの種類によって異なる」

とまとめました。この結論を通して、私はこう考えました。

「本のサイズの種類によるということは、そのサイズではどのくらいのそでの長さだと快適なのか、発行所の方々がたくさん考えてくださったのだろう。」

また、発行所によって同じサイズの種類の本でも、若干、そでの長さが異なることから、

「企業努力」

的なものを感じました。

一旦ココで、発行所の方々に

「ありがとう」

を伝えたいです。快適な読書のために、たくさんの方々の努力をしてくださり、ありがとうございます。これからも多くの書籍を読ませていただきます。未来でも頑張ってください。ものすごく応援&感謝させていただきます。

しかし、私は気付いてしまいました。そでの重要性に。

私はよく本、特に漫画のブックカバーをめくり、カバーの下にある表紙イラストやデザインを楽しんでいます。本を買ったり、読み終わったりしたら必ず見えています。この

楽しみは、ブックカバーが表紙に付いていることで成
立します。また、改めて考えてみると、そでがなければ、本に
カバーは付けることができません。

つまり。私の本への楽しみの大きな部分はそで、いや、
そで様によって存在しているということです。そで様に
「ありがとうございます」

そして、

「ごめんなさい」
を伝えます。

今まであなたの存在の重要性に気づかず、表紙を見たい
という一心でカバーをめくってきました。本当に申し訳ご
ざいませぬ。そして、ブックカバーや私の本への楽しみ、
快適な読書を支えてくれてありがとうございます。これか
らこの本、業界を支える要となることと思ひます。たく
さんの部分を支えてくれている。そで様への感謝が届く事
を願ひます。

「ずっと言えていなかった「ありがとう」」

広島県立広島中学校 児玉 紗和

私が一番感謝を伝えたいのは、年長の時に病気を治してくれた大学病院の先生です。

私は生まれつき心室中隔欠損症という心臓の病気がありました。その病気があるせいで、毎週注射を打たないといけなかったり、薬を飲まないといけなかったりして大変だったと母から聞きました。私の病気のせいで小さい頃は家族に迷惑をかけてしまっていたところがあつたなと思います。

そんな時に出会ったのが岡山大学病院の先生達でした。私が手術をしたのがまだ小さい頃だったので、先生達の顔は記憶にありませんが、母から先生達について聞いていると、私のことを考えてくれて手術をしてくれていて感謝の気持ち伝えたいと思うようになりました。

私が手術をしたのが年長の一月だったので、小学校入学がとても近い時でした。私の病気は、本当はお腹を切らなければいけなくてランドセルが背負えないようになってしまわずでした。でも主治医の先生は脇から手術をして、

私のランドセルを背負いたいという夢を叶えてくれました。とても難しい手術のはずなのに、

「簡単な手術だから大丈夫。」

「ランドセル何色にするの？」

など私と家族を不安にさせないような声がけをしてくれました。また、手術の時は看護師さんに、優しい声をかけてもらったり、手術後も優しく面倒をみてもらったりしました。その時の場面は今でも思い出すことがあります。

大学病院の先生達がいなかったら、ランドセルを背負うことができなかったり、日常の生活に支障がでたりしていたと思います。先生達のおかげで、小学校生活をみんなと同じように楽しくおくることができました。そして、ずっと手術をしてから約七年半、元気に過ごすことができています。

今の日常があるのは、私のこと、私のこの先のことをよく考えて病気を治してくださいと先生方のおかげだと心から思っています。本当は直してもらった時や直接言うべきなのかもしれませんが、なかなか言う機会がないのでここで伝えさせてもらいます。

「本当にありがとうございました。そして夢や希望をも

たせてくださってありがとうございます。」

先生達との出会いで、私にも医者になりたいという夢が
できました。私も先生達のように、患者のことを一番に考
えられる、患者から信頼される、そんな医者になれるよう
にがんばっていきます。

「出会い、話し合い、ありがとう」

広島県立広島中学校 白男川 隼人

もう何年ためらい続けたことだろう。小学校を卒業して、その恥じらいとまたどうせ会うという怠慢な気持ちから「ありがとう」の一言を心の底で後回しにし続けてきた。

そんな自分といまだ関わり続けてくれる荘山田小学校を共に卒業した友に今こそ七年分のありがとうを言いたい。想えば一番の親友であった君へ。

君は、小学二年生の始業式に突然やって来た時を覚えているのかな。一年生の時から荘山田小であった僕達にとつて転校生というのはとても新鮮でもあり、どう関われば良いのかという不安の対象でもあった。でもそんな不安も君の話の面白さで全部吹き飛ばしてくれた。君の話で一学期はもちきりになって自然となじんでいった。

けれども二年生後半から三年生にかけてコロナのせいで、友達と顔を合わせることもなくなった。その時はまだお互いスマホを持っていなかったから話すこともなかった。分散登校やクラス分けも重なって三年生、四、五年生もあまり話す機会がなかった。

君と親友になれたのは六年生の時だった。クラス分けで同じ六年一組になってから、二、三、四、五年生の時話した量を全部足しても足りないくらい色んなことを話したと思う。学校のこと、その日の出来事、政治、スポーツ、勉強、ゲーム、そして僕の受験のこと。

僕が中学校受験をしてみんなとは違う学校に行くと伝えた時はおどろいていたけど真っ先に応援してくれた。そして変わらず話し合いをしてくれた。緊張ととなり合わせだった僕にとつて変わらず話してくれるのがとてもうれしかった。

他にもゲームを君にさそわれてやって、今も君とやるほど楽しくなったり。放課後にサッカーをしようとさそってくれたり。君との出会いで変わったことがたくさんあった。本当に君と出会えて良かったと思った。けれどお別れはやってきた。

卒業式の日はいつともより時間の流れが早く感じた。みんなと写真をとって「また会おうね。」とだけ言って解散した。あの日から君とは会っていない。君と話す事はいっぱいあったのにと後悔もした。顔を合わさず、ずっと話すのは難しい。メールのやり取りも大分減った。このままつながり

がなくなるんじゃないかとも思う。そんな今だからこそ君に伝えたい事がある。

「今まで本当にありがとう。君と親友でいられたのがうれしかった。これまでだけじゃない。これからも。ずっと親友でいてくれますか？」

あの日話したたわいない日常を今度は七年分のありがとうをこめて、いっぱい話せたらいいな。

君の一番の親友より

「前に伝え忘れた「ありがとう」」

広島県立広島中学校 林 美希

種類によって見た目が変わるため一概には言えないが、一般によく見られるものと、体調は三〜四cm前後、鈍く光る黒褐色の鎧をまとい、わずかな隙間にも潜れる平たい

体躯、そして何よりも恐ろしい特徴、闇から独特の「カサツ：カサカサ」という音を奏でながら予測不能な飛行法により飛び立ち、触角の元に隠された表情のない顔で、台所周りを見渡す彼（彼女）だろう。その名をクロゴキブリ。

言わずと知れた、友人に恵まれない人類の敵である。（※環境保全やアースの売り上げに貢献しています。）そんな彼（彼女）は今日も元気に町に潜んでいる。（寒冷地帯を除く。）

彼らの暮らしは夜行性であるために昼には観測できない。彼らの普段、だれにも見せないパンドラの箱を開けるべく、（普段の生活）ユーチューブで検索したところ、彼（彼女）がイモリだったかヤモリ、ネコなどに捕食されるものしかヒットしなかった。これはこれでパンドラの箱である。

私はそっとユーチューブを閉じた。皆よほど鬱憤がたまっていたとみえる。彼（彼女）も悪気があって侵入してい

るわけではないのだろうに。（私の家にはアース製品がありません。）

ここまで長々と彼（彼女）について書いたのは、私の友人の勲章にあたる善行を忘れないためだ。周りの友人を守るために自らの手すら汚す、その気高い精神に私は敬礼をする。

あれは今から半年前。彼、（彼女）かは分からないがとにかく、彼（彼女）が出現した。女子トイレに。そうじの先輩方は人生の先輩であっても彼（彼女）の駆除の知識はないと見え、黄色い声を上げていた。そんな先輩方に呼ばれ、颯爽と現れた友人はたった一撃で彼（彼女）を撃沈させた。

白い担架（ティッシュ）に優しく彼（彼女）を乗せたのち、永眠の墓場（ゴミ箱）へダストシュートした。恐ろしく早い作業、私でなきや見逃していた。

私達のそうじ時間の平穏を守ってくれた彼女には感謝している。今更と言うのは少し、いやかなり遅いが伝えた。ありがとう、と。

「伝えきれない感謝」

広島県立広島中学校 松田 彩希

「さきちゃん、〇〇歳の誕生日おめでとう」――。毎年、七月二十日に目にする柔らかな文字と爽やかなラムネ色のマスクングテープ。私が中学生になっても応援して背中を押してくれるメッセージ。私は毎年この文章に勇気づけられています。

先生、お元気ですか？最後に会ったのは小学六年生の時の同窓会でしたね。父から、先生は保育現場から離れ今は別の教育施設で働かれていると聞きました。だけれど「さきちゃん」と声をかけてくださって遊んだときの先生は、ずっと先生のままです。同窓会の時も本当は小学校であつた出来事やおもしろかったこと、げんなりしたことなど、たくさん話したかったけれど五年間の穴で気恥ずかしくなつて話せなかったこと、今でも後悔しています。

先生は私に様々な色の「心」と「人間らしさ」をたっくさん教えてくださいました。私の一番の思い出は、先生と友達と一緒に他の先生が大切に育てていた熟したイチジクを「ないしょ」で食べたことです。思い返してみればあの

イチジクを育てていた先生には申し訳なかったなあと思いますが、あの時の私はそんなことも考えられないくらい、もいだイチジクがルビーみたいに見えていました。サアツと水で洗い、皮をむいた後に丸ごとかぶりついて、一緒に食べたイチジクの味は今でも忘れられません。そんな時に「自然」というすばらしさを身をもって感じられたんだと思います。今でも園庭にあの木はあるのでしょうか？

このように少しおちやめで笑顔がチャームポイントの先生は、星の数ほどの大切なことを教えてくださいました。それはどんなに時がたつても私の記憶の一つとして輝いています。先生には感謝しきれないほどの恩がたっくさんあります。泣いて悲しかった時も、イタズラして怒られた時も、ほめられて嬉しかった時も負けていじけた時も、昔も今も、どんな時でも先生は私の背中を押してくださいました。だからこそ私は「自分らしく」生きていられています。

あんなに小さかった私も、もう中学生です。部活や課題、人間関係など悩むこともたくさんありますが、先生が教えてくださったことを思い起こし乗りこえていけたらなあと思っっています。会うことはなかなかできないかもしれないけれど、やっぱり私は会いたいです。最後に、ありったけ

の気持ちで今までの感謝を伝えます。たくさんのごことを教えてくださり、応援してくださり、毎年欠かさず手紙を出してくださり、私を支えてくださり、

「ありがとうございます。」

「気を遣わない友人へ」

広島県立広島中学校 横山 梓実

「ありがとう。」私は、些細なことにもこの言葉を言えても、重要で本当に言わなければならぬ時、言うのをためらってしまう。心の中では「ありがとう」と思っている、口に出すのは難しい。

私は時間にルーズになりやすい。原因は準備を終えるのが遅いからだ。自分でも分かっている。しかし、どんなに頑張っても、みんなよりも少し遅くなってしまふ。私の部活の友人には、いつもクラスで一番早く移動している子がいる。その子と仲良くなって一緒に帰るようになる、いつも待たせてしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいになる。「ごめん。先に行っておいていいよ。」とつい言ってしまうが、待たせておいて、なんて自己中心的な発言だ、と自分でも反省する。

そして、次第に何も言わなくても別々で行動するようになった。仲が悪くなったわけではないが、学校を出る時はそれぞれが他の友人と帰り、駅からは合流して一緒に帰る。最初は、私が遅くて申し訳ないと思っていた。

それからしばらく経って、久しぶりに学校を出るタイミングが一緒になり、「いつも一緒に出られなくてごめん。」と謝った。しかし、友人は「自分のペースで歩けるし、駅で一緒になれば楽しく話しながら帰れるじゃん。」と言ってくれた。相手は今の状況を良く思ってくれていたのだと知ると、心の中のわだかまりがスツとなくなった。

確かに、この前までは「急ぐ」ということで頭がいっぱいだったけれども、最近は少し余裕が出てきている気がした。さらに、駅から一緒に帰る時も、前より会話が弾んでいた。

友人は、良い意味でお互いが気を遣わない距離感を教えてくれた。無理に相手に合わせようとするのではなく、話し合っただけで納得した上で過ごせば、きっとより良い関係が築けるはずだ。私は友人に感謝の言葉をまだ言えていない。思っていると言わないのは、思っていないのと同じだから、私はこの友人に言いたい。

「ありがとう。新しい人間関係の方法を教えてください。」

「唯一の楽しみ」

広島市立矢野中学校 上中 心都

私は去年入院していました。制限された生活の中で唯一楽しかった場所があります。そこは、リハビリテーションです。リハビリテーションで理学療法士さんと運動するのが唯一楽しかったことです。

私はその理学療法士さんに「運動の楽しさを思い出させてくれてありがとう。」と伝えたいです。

私は、もともと運動が好きでした。特に小学生からずっとやっているテニスは、中学生になってもクラブチームでやるほど大好きです。だから、外に出られなくなった入院生活は本当に過酷なものを想像していました。

そして、その通りでした。薬の副作用は思ったより強く、自分がどんどん違う自分になっている気がしました。食欲も自分でコントロールできず、一日に何食も食べてしまう自分が怖かったです。体調がいい日も部屋から出られず、「もうがんばれない。なんで私が病気になるといけないの。」と、思ってしまうこともよくありました。

そんな時主治医の先生が、「体調のいい日はリハビリテ

ーションに行つて体を動かしてみる？」と言ってください行ってみるようになりました。

行つてみると、薬の影響で髪の毛が抜けている子や車椅子の子など色々な子供がいましたが、どこを見てもみんな楽しそうに運動をしていました。そして、高齢者から小さい子供まで理学療法士さんが一人一人について楽しそうに話していました。

それを見て私は入院する前の楽しかった日々を少し思い出すことができました。

「私だけが辛いと思っていたけど、私より辛い子はたくさんいる。だから最後まで戦おう。」

という気持ちになりました。

そこから、私は体調が悪い時以外はリハビリテーションに行つて運動することが楽しみになりました。

私はこのリハビリテーションという場所があったから、病氣と最後まで戦えたのだと思います。そして、理学療法士さんが隣にずっといてくれたからこそ、色々な話もできて楽しく運動できたし、退院してもテニスをがんばろうと思えました。

今では、そんな理学療法士が私の将来の夢です。

「今ある幸せにありがとう」

広島市立矢野中学校 柴田 莉奈

皆さんは早産児、低出生体重児という言葉を知っていますか。早産児とは、予定していた日より早く生まれた赤ちゃんのことを言います。早産児として生まれた赤ちゃんは、臓器の発達が未熟なため様々な合併症のリスクが高くなっています。低出生体重児とは、出生時の体重が二千五百グラム未満の赤ちゃんのことを指します。

私は、早産児、低出生体重児として生まれてきました。母のお腹の中で十分に成長できない状態で、母のお腹を切り生まれてきました。なので母のお腹にはその時に切った傷跡が残ってしまいました。

父は私が生まれた時、手が小さくてビックリしたと言っていました。母は、小さい私を見て大きく育ってくれるか不安だったと言っていました。

私には姉がいて、私が生まれるまでの間、母が病院にいたので、母方のおじいちゃんおばあちゃんの家に預けられていたのだと、父から聞かされました。姉は当時一歳だったので記憶があまりありませんが、とても寂しかったと思

います。

私は母が退院しても、体重が二千五百グラムを超えるまで退院できませんでした。その時は、まだ自分でミルクを吸う力がなかったもので、胃にチューブを通していたのですが、そのチューブを自分で引き抜いたらいいのです。そして看護師さんが哺乳瓶を口に持って行ったら、なんと自分で飲み始めたらしいのです。その時母は、「この子には生きる力がある」と思ったそうです。

早産児、低出生体重児で生まれた他に私は、動脈管開存症とも診断されました。動脈管開存症とは、出産後に閉じらるはずの動脈管の穴が開存したままの状態になることです。なので、一歳の時カテーテル手術を受けなければいけませんでしたが、穴を塞いだコイルが取れて開いていないかを確認するため、二年ごとに病院に行かなくてはいけませんでした。

私はまだ小さかったのでなぜ病院に行くのかわからなくて病院に行くことに少し不満を持っていました。でも、病院の先生は優しく、落ち着かない私にアンパンマンの動画を見せてくれたり、人形で遊んでくれたりし、楽しかつ

たということ覚えています。

これまでたくさんの方がありがとうございました。時には友達と喧嘩したり、時には悲しいことがあり泣いてしまったり、大変手のかかった子供だったと思います。

でもここまで成長することができたのは、成長するまで支えてくれた家族、知り合ってきた人たちのおかげだと思っています。そんな人たちにありがとうございますを伝えたい。

お母さん、私を産むために頑張ってくれてありがとうございます、お母さんは体に傷を残した後でも私の心配をしてくれ、その広い温かい心が私を育ててくれたのだと思います。

そして、この作文のおかげで、幸せを改めて感じる事ができました。

今ある幸せにありがとう。

「看病」

広島市立矢野中学校 武田 洸希

最近「ありがとう」という言葉の大切さをあらためて感じました。僕がそれを強く思ったのは、病気になったことがきっかけです。

昨年の冬頃、僕は「ステイブン・ジョンソン症候群」という病気になりました。その病気は、薬や感染症が引き金となって、皮ふや口、目、陰部などの粘膜に、ただれや水ぶくれができる重い病気で一ヶ月弱入院していました。僕が目や口も開けられないとき、母はずっとそばにいてくれました。少しでも開けられるようにあったかいタオルで目をふいてくれたり、水で口を洗ってくれました。また、ご飯もまともに食べられない状態でも、母は食べ物を食べやすい大きさにしてくれたり、あったかいお茶を買ってきってくれたので、つらい思いもしたけど、母がいたので安心しました。母には、一日中つきそってもらいたくさん迷惑をかけてしまいました。

僕が修学旅行までに病気が治らないことを知って、母は誰よりも悲しんでくれて、「家族で旅行に行こうね。」と優

しく声をかけてくれました。そこで僕は、僕のことを第一に考えてくれて動いてくれた母に感謝したいなと思いました。

病気が治って、退院する日がきまつたときには、一緒に喜んでくれました。

でも、僕は母に「ありがとう」しか感謝の言葉が言えず、しっかりと感謝の言葉を伝えることができませんでした。なので、母に

「最初は病気になったことで、怖い気持ちでいっぱいだったけど、お母さんがいてくれたおかげで、心強かったよ。」
「あと、僕がすっかり苦しいときに明るい言葉をかけてくれたおかげで、安心することができたよ。」

「お母さんは、疲れているはずなのに、つらい思いにさせたり、迷惑をかけてごめんね。」

僕もお母さんみたいに、優しく、心強く、立派な大人になりたいです。僕のためにそばにいてくれたり、僕のことを第一に考えてくれたり、明るい言葉をかけてくれてありがとう。今度は僕が、お母さんの力になれるようにがんばるね。」と感謝の気持ちを伝えたいです。

努力賞

「ありがとう、さくらちゃん」

広島市立矢野中学校 徳広 真緒

さくらちゃんへ、私があなたのことを知ったのは小学生のころに見たアニメ「カードキャプターさくら」がきっかけでした。一目見たそのとき心を奪われました。

私はさくらちゃんが一生懸命に頑張る姿にいつも元気をもらっています。カードの封印を解いてしまっても責任を持つて最後まで向き合おうとするその姿勢がとてもかっこよくて、私の憧れです。不安なことがあっても「絶対だいじょうぶだよ」と笑顔で言ってくれるたびに、不安だった気持ちが少しずつ前向きに変わっていきます。学校生活の中でうまくいかないことや悩むことがあります。でも、そんな時にさくらちゃんのことを思い出すと「私も諦めずに頑張ってみよう」と思うことが出来ます。さくらちゃんの優しさと強さは、私にとって大きな支えです。

さくらちゃんが、友達や家族を大切にしている一人ひとりの気持ちを真剣に受け止めるところが、私はとても好きです。誰かが困っているときにはさりげなく寄りそい、優しい言葉で支えてくれるあなたの姿に何度も心が温かくなりました。

た。そして、自分が辛いときでも相手の気持ちを考え、思いやるその優しさに私はたくさんのお話を教わりました。

さくらちゃんのことを思い出すと「私もさくらちゃんのように頑張ってみよう」「大丈夫、きっと乗り越えられる」と前向きな気持ちになることが出来ます。アニメの中のキャラクターであっても、あなたの姿は私にとって本物の勇気と希望をくれる大切な存在です。

さくらちゃんに出会えたおかげで私は、優しさや諦めない心の大切さを知ることが出来ました。あなたが全力で頑張る姿を見ることで私も「もっと自分らしく頑張りたい」と思えるようになりました。今の私が前向きに毎日を過ごせているのは、さくらちゃんの影響がとても大きいと感じています。

これからもさくらちゃんの物語を大切に心の中で応援し続けます。そして、私自身もさくらちゃんのように周りの人を笑顔にできる優しい人になれるよう努力していきたいです。

さくらちゃんを好きになってから、もう八年が経ちますがその気持ちは今でも変わりません。小さい頃からさくらちゃんが大好きで気付けば八年以上応援し続けています。

年月が経っても、あなたの物語を見るたびに新しい発見があり、何度でも勇気をもたらすことが出来ます。これほど長い間、ずっと大切に思える存在に出会えたことを本当に幸せだと感じています。

これからも、さくらちゃんの優しさと強さを胸に私も毎日を前向きに生きていきたいです。

さくらちゃん、本当にありがとう。これからもずっと、心から応援し続けます。

「名前も知らない恩人」

広島市立矢野中学校 直木 悠真

「ありがとうございます」について考えた時に、私はこのことを思い出しました。それはある夏の日に見知らぬ人に助けられたことです。

その日、小学生だった私は初めて一人で電車に乗って、少し離れた町へ向かっていました。家族や友達と一緒に簡単に感じることも、一人だと少し不安です。目的の駅について改札を出ようとしたとき、私はICカードを電車に忘れてしまったことに気付きました。

頭が真っ白になり、どうしたらいいか分からず、ホームに戻ると、すでに電車が出発したあとでした。私は泣きそうになりながら、駅員さんに事情を説明しようとした、その時、一人の女性が私に声をかけてくれました。

「これ、あなたのじゃない？電車の中で見つけた。」

と言い、私のICカードをわたしてくれました。私は驚いてそれから慌てて

「ありがとうございます。」

と深く頭を下げました。女性は笑顔でその場を去っていき

ました。

私は、その人の名前も知らないし、どこから来たのかも知りません。でも、あのときに言った「ありがとうございます」は、心から出た言葉でした。自分が本当に困っていた時、誰かが助けてくれる。そのことがこんなにもあたたかく、心に残るものだとして初めて知った瞬間でした。

その日から、私は見知らぬ人にも「ありがとうございます」と伝えることを恐れなくなりました。

例えば、電車で席をゆずってもらった時、道を教えてもらった時など、小さな言葉でも言葉にして伝えるようにしています。

これから先、私もあの日の女性のように、誰かが困っている時に、そっと手を差し伸べられる人になりたいと思います。

「ありがとうございます」と言われるよりも、「ありがとうございます」とい

たくなるような行動を自分からできる人間になりたい。

そう思えるようになったのも、あの夏の日のおかげです。

もしまたあの女性に会えたら、もう一度「ありがとうございます」と伝えたいです。

「僕に剣道を教えてくれる先生へ」

呉市立矢野中学校 村山 航基

先生、いつも指導してくれてありがとうございます。僕が先生に剣道を教わるようになって、三年半くらいたちます。先生の教えはいつも心に響いています。

先生は誰よりも強く、誰よりも厳しい先生です。最初の頃は、正直こわいと感じる事もありました。でも、稽古を続けていく内に、先生の言葉の中にはいつも僕達への愛と期待がある事に気付きました。

僕は、剣道に関してはやる気とガッツだけは、誰にも負けないつもりです。うまくいかない日も、悔しくて泣きそうなのもあります。

僕が五年生の頃、試合でぜんぜん勝てない時期がありました。それが悲しくて先生に相談した事がありましたね。先生はこう言ってくれました。

「今大事なのは勝ち負けじゃない。」「大事なのは基本だ。今は土台を作っているところなんだ。」

僕はその言葉がとても心に響いていて、今でも基本を大事にしています。

試合で中々勝てない時、自分につかりしてしまう事もあります。それでも先生はいつも僕を見捨てずにいてくれます。

「お前弱いなく。」と笑いながら、「まだまだこれからだ。」と励ましてくれます。

僕が本当にうれしいのは、先生がいつも未来を見て指導してくれる事です。目先の勝利よりも、先の将来に向けて大事な事を教えてくれていると、今ではよく分かります。すぐに結果が出なくても、ちゃんと土台ができていればきっと強くなれる。そう信じて、先生の教えについて行こうと、いつも心に決めていきます。

でも、やっぱり勝ちたいです。僕は試合で一本を決めて、旗が三本上がる瞬間が最高に好きです。だから先生、基本も頑張りますから、勝負強くなる方法も教えてください。

僕は剣道をこれからもずっとずっと続けたいと思っています。毎日コツコツと稽古を頑張って、先生に「おまえ強くなったなく。」と言われる日が早く来るといいな、と思います。

これからも、こんな僕にご指導をよろしく願います。そして、いつも本当にありがとうございます。

「魔法の言葉」

広島市立矢野中学校 山崎 優里

「ありがとう」私がその言葉を今、一番伝えたい人は祖母だ。私の家は二世帯で住んでいる。祖父は毎朝、家族の中で一番早く起きる。そして毎日かかさずお墓参りに行き手を合わせてくれ、私が学校に行くまでには必ず戻って見送ってくれるのだ。私は毎日朝早く起きることが出来ないうし、何をやるにも面倒だなど思ってしまう。

しかし、祖父は面倒だと言っていたことは今まで一度もなく、私には常に笑顔で話しかけてくれる。私がやりたい事は全て応援してくれ、それが上手いくとたくさんほめてくれる。私が嫌なことなどがあっても祖父と話すだけで気持ちがるくなる。

祖母は、私の両親が仕事でいない時、ご飯を作ってくれたり、私がひとりで困っていないか、いつも気にかけてくれる。そして、元気になれる言葉をかけてくれる。祖母は何事もポジティブに考えるので、私がネガティブ思考になっっていたとしても、祖母と会話するところからもポジティブになれる。祖母は、いつも自分の意思をしっかりと持って

いる人なので、正しいことは正しいと言ってくれる。そして私が間違ったことをすると本気で叱ってくれ、私を正しい道に導いてくれる。また、祖母はどんなことがあっても笑顔でいるところが本当にすごいと思う。

私はそんな祖父と祖母のことを心から尊敬している。普段いろいろなことをしてもらったりしても「ありがとう」を伝えることが出来ていない。だから、感謝の気持ちを伝えようと思う。いつも笑顔で話しかけてくれてありがとう。

私に優しくしてくれてありがとう。私を元気にしてくれてありがとう。勇気をくれてありがとう。頑張っていることを応援してくれてありがとう。私の心の支えになってくれてありがとう。言い出したらきりがなくらい、私が伝えたいといけない「ありがとう」がたくさんある。

「ありがとう」という言葉は、魔法の言葉だと思う。なぜなら、言った人も言われた人も気持ちが明るくなるからだ。そんな魔法の言葉を私はたくさん言おうと思う。いつもありがとう。

「平和について考えたこと」

三原市立幸崎中学校 河野 孝

今年、広島と長崎に原爆が落とされてから八十年という節目の年を迎えました。八月六日の朝、私はテレビで広島原爆ドームを見ました。何度も見たことがあるはずなのに、改めてみると、屋根はなく、壁も崩されていて、こんなにしっかりした建物がこんな姿になってしまっている、原爆のこわさを強く感じました。

今でも世界には、約一万二千発の核兵器があるといわれています。こんなにたくさんの核兵器があるなんて、すごくおどろきました。私は、核兵器をなくしていくべきだと思います。なぜなら、核兵器は人をたくさん殺してしまうし、町や自然もこわしてしまからです。

でも、今の世界では、まだ戦争や争いが続いています。ロシアとウクライナの戦争はもう三年半続いています、イランとイスラエルの間でも戦いが起きています。ニュースでは、イスラエルとアメリカがイランの核施設を攻撃したと聞きました。他にも、いろいろな国や地域で戦争やめごとが起きています。そんな中で広島と長崎の被爆から八十

年がたった今、改めて「平和」について考えることはとても大切だと思いました。

今年、ハンガリーやパラグアイの大統領が広島の平和記念公園を訪れて、原爆慰霊碑に花をささげたそうです。世界のいろいろな国の人が、原爆や平和について関心を持っていてくれることは、うれしいことだと思います。

私の学校でも平和学習がありました。その中で、戦争を体験した人の話を聞く機会がありました。三原市に住んでいる中岡さん（九十六才）が学校に来てくれて、八十年前の体験を話してくれました。

中岡さんは、原爆が落とされた日、三原市で看護学生をしていたそうです。原爆が落ちたあと、広島へ行って医師や看護師と一緒に被爆した人たちの手当てをしたそうです。でも、広島町はまるで地獄のようだったと話しています。死んだ人たちがたくさんいて、車を停める場所もなく、歩く場所もないほどだったそうです。

「うおううおう」とうなってる人や、息が苦しそうな人、体が焼けて皮膚がただれている人がいたそうです。歩いている人もいたけれど、肩から皮がはがれて、ひものようにぶら下がっていたと聞いて、私はとてもショックを受けま

した。中岡さんは、それを見て涙が出たと言っています。

また、水を欲しがっていた子どもに水を飲ませようとしたとき、先生から「飲ませても飲まさなくても、どうせ死ぬ」と言われたそうです。その言葉を聞いて、私はとても悲しくなりました。戦争は人の命を軽くしてしまうのだと思いました。

中岡さんは「戦争は絶対にしてはいけない。戦争はみんなを不幸にする。戦争はいけないということを分かってほしい。」と話してくれました。その言葉は、私の心に強く残りました。ありがとう。